文部科学省
地(知)の拠点

平成25年～29年度 文部科学省
「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」

ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業

02

平成26年度
成果報告書

平成27年3月

札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

文部科学省
地(知)の拠点

平成25年～29年度 文部科学省
「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」

ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業

02

平成26年度
成果報告書

札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

『ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業』
平成 26 年度報告書
目次

ごあいさつ　P 3
事業推進責任者　札幌市立大学 学長 蓮見 孝

Ⅰ. 平成 25 年度の COC 事業評価

COC 事業 評価部門　P 5

Ⅱ. 事業概要

ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業の概要　P 9
COC 事業担当者　デザイン学部 教授 中原 宏
学内組織体制図　P12

Ⅲ. 活動報告

0. 活動履歴　P14
1. 教育改革推進チーム　P19
2. 研究企画推進チーム　P23
3. 学び舎企画推進チーム
　3.1 ＜ SCU まちの教室＞班　P30
　3.2 ＜ SCU まちの談話室＞班　P33
　3.3 ＜ SCU まちの先生＞班　P36
4. 広報企画推進チーム
　4.1 ＜ COC 広報＞班　P38
　4.2 ＜ COC 催事＞班　P46
5. COC 特任教員　P48

ごあいさつ

事業推進責任者
札幌市立大学 学長
蓮見 孝

札幌市立大学（Sapporo City University, 以下SCU）は、平成25年度に公募された文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（Center of Community, 以下COC）」に、自治体である札幌市と連携して申請し、全国52の大学等による推進事業の一つとして採択されました。以降２年間にわたり、札幌市との密接な連携のもと、「教育の改革」、「研究の推進」、「社会貢献としての学び舎の運営」、そしてCOC事業を広く知っていただくための「広報活動」に積極的に取り組んできました。

本学COCの事業内容は、その事業名称である「ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業」に凝縮されています。

教育の改革では、創立以来の開設科目であるデザインと看護の両学部生必修の「スタートアップ演習」（１年次）と「学部連携演習」（３年次）を、札幌市南区役所及び南区の10地区の市民の方々の力強いご協力とご支援のもと、学生たちが地域の実情に触れ課題解決に取り組む「PBL（Project-Based Learning：課題解決型学習）」に改編しました。さらに、COC型教育を４年間にわたり継続的におこなうために、「学部連携基礎論」（２年次）や「地域セミナー」（４年次）という新たな授業の開講を準備中です。これにより、学・官・民・産が協奏して明日の地域の担い手である学生たちを支え育てる体制が構築できるものと期待しています。

研究においては、地域にイキイキ・ワクワク・ドキドキを生み出すための「ウェルネス」に関わる学内公募型の研究を進めるとともに、南区の協力を得て、区内に住む65才以上の住民9000人を対象とした「健康に関するニーズ調査」をおこない、回答のあった約3000人の回答をまとめ、その分析結果を発表しました。

「学び舎」は、SCUがまち中に新たに設置するCOCキャンパスです。旧真駒内緑小学校を活用し、平成27年春から、「SCUまちの学校」として開設します。従来の、教員と学生の二者による閉じられた教育の場としてのキャンパスから、一般市民が日常生活を送るまち中に歩み出て、多世代・多セクターの人々と学生や教職員が学び合えるキャンパスを設け、協奏型地域社会のあるべき姿を考え合い、さまざまな試みの活動を実践し合う場の運営をおこないます。

本学のCOCは、本年４月より３年目を迎え、いよいよフル稼働の段階を迎えます。札幌市南区を対象として企画・設計・構築してきた地（知）の拠点大学の実像が、ようやくその姿を現します。これをプロトタイプとして、さらに札幌市内全域に、そして周辺の自治体へと、適用していく次の段階が待っています。大きな期待と希望をもって、このプロジェクトの一層の推進にあたって参りますので、ご支援・ご参画をよろしくお願いいたします。

Ⅰ. 平成 25 年度の COC 事業評価

COC 事業　評価部門

【学内委員】
中村 惠子 札幌市立大学 副学長（評価部門長）
城間 祥之 札幌市立大学 デザイン研究科長

【学外委員】
細川 敏幸 北海道大学教育改革室／北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部 研究部長 教授
瀬戸口 剛 北海道大学工学研究院 建築都市空間デザイン部門 空間計画分野 教授
遠藤　滋 北海道立総合研究機構 連携推進担当理事
佐藤 正義 シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート（南区区民協議会）監事
元木　朗 札幌市市長政策室 改革推進部長

本事業では、学外委員も含む評価部門を設け、事業の推進状況の評価をおこなっている。平成 25 年度の事業評価結果は「概ね良好、ほぼ計画どおり実施されている」であった（右記参照）。

平成 26 年（2014 年）8 月 13 日

ＣＯＣ部門長（ＣＯＣ事業担当者）
中　原　　宏　様

ＣＯＣ評価部門長
中　村　惠　子

平成 25 年度「地（知）の拠点整備事業」の実施状況に関する評価結果について

平成 26 年 7 月 15 日に開催しました平成 26 年度第 1 回「地（知）の拠点整備事業」評価部門会議におきまして、本事業の平成 25 年度の実施状況を以下のとおり評価しましたのでご通知致します。

記

1　評価結果

平成 25 年度の本事業は、「概ね良好、ほぼ計画どおり実施されている」と評価する。

2　委員意見

・　初年度ということもあるが、まずまず良いスタートが切られ「概ね良好」であると評価する。
・　定量的な指標は本事業の行動指標として重要であるが、定性的な成果指標を設定して、成果をよりわかりやすく示せるとよい（例えば、地域の活動の変化指標など）。
・　旧真駒内緑小学校が平成 26 年度はまだ使用できないため、区民センターなどの他施設をうまく活用して推進するなど、旧緑小学校改築期間の活動についても検討しておいてほしい。
・　高齢者ニーズ調査の結果を COC 事業の取り組みの中に積極的に活用することや、行政との連携（棲み分け）をして調査結果の反映が市民に分かるようすることが望まれる。
・　本事業の成果と教育成果をどのように考えて行くかも今後の課題である。

Ⅱ．事業概要

ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業の概要

COC 事業担当者
デザイン学部 教授
中原 宏

本事業は、札幌市と連携し、廃校となった小学校の一部に地（知）の拠点「真駒内 COC キャンパス」を新設し、ここを多世代･多セクターが学び合う「学び舎」として整備し、「地域志向」の教育・研究・社会貢献活動を推進するものである。札幌市、とくに南区では、少子高齢化が進み、コミュニティの再構築、地域の魅力ある顔づくり、高齢者のウェルネス支援が課題となっている。この課題解決に向けて、デザインと看護の専門性を有する本学が、ウェルネス支援や地域の活性化に貢献する人材を育成するなど、地域志向プロジェクトを地域住民と協働して展開する。あわせて、本学の学生が、真駒内 COC キャンパスで地域の現状を体感し、課題を読み取り、解決策を提案する過程で、「専門性を実社会に活かす力」を獲得することを目指す。

主な事業の構成と、平成 26 年度の実績は以下のとおりである。

【1．教育：異分野連携教育の拡充と地域志向の強化によるカリキュラム改革】

本事業では、地域志向の教育を「COC カリキュラム」として位置づけ、デザインと看護の異分野連携教育を拡充するとともに、「COC カリキュラム」を強化するため、以下のようなカリキュラム改革に取り組んでいる。

デザイン学部と看護学部の学生が協同して課題解決に取り組む異分野連携科目である「スタートアップ演習（１年次）」と「学部連携演習（３年次）」については、平成 26 年度は札幌市南区をフィールドとして実施し、地域課題の発見・解決提案などに取り組んだ。

また、１年次の「スタートアップ演習」と３年次の「学部連携演習」のスムーズなステップアップを図るために、２年次に「学部連携基礎論」を新設する方策について検討を行った。あわせて、自主的な実践力を養成する「地域セミナー」の新設に向け、これら４科目の順次性や相互関連性、導入の時期などについても様々な角度から検討した。

さらに、現行のデザイン学部・看護学部の専門教育科目のうち、「地域に密接に関わる内容」を、シラバスに明記するよう見直しを行い、全科目における「地域志向」科目の割合を段階的に増やしている。

【2．研究：ウェルネス×協奏型地域社会の構築に寄与する研究の推進】

本事業では、対象地域の課題解決に寄与する、ウェルネス×協奏型地域社会の構築を目的とした研究を「COC リサーチ」として位置づけ、最重点研究課題として取り組んでいる。

COC リサーチについては、全学教員を対象とする競争的研究資金（「地域志向」研究のための研究費補助制度）を平成 25 年度に「COC 共同研究費」として創設し、積極的に支援することとした。平成 26 年度の COC リサーチとしては５件の研究を採択するとともに、それらの研究成果をとりまとめた研究成果報告書を発刊した。

また、平成 25 年度に実施した「札幌市南区在住の 65 歳以上の高齢者の健康に関するニーズ調査」の分析結果をまとめ、南区住民を対象とした「健康に関するニーズ調査結果報告会」を開催した。あわせて、COC 事業推進に活用すべく、学内者に対し利用公開（要利用申請手続）した。

今後も、地域志向の特徴が強い研究を全学的に推進していく予定である。

【3．社会貢献：コミュニティの再構築等の地域課題の克服に寄与する社会貢献活動の展開】

本事業では、対象地域の課題解決に寄与するウェルネス×協奏型地域社会の構築を目的とした社会貢献活動を「COC まちの学校（旧名称：COC タウンアカデミー）」として位置づけ、以下の事業を全学的に展開している。

① COC まちの教室（旧名称：真駒内夜学校）：地域住民向けの公開講座・セミナー事業

本学の全教員が、デザイン学・看護学の最先端の講義を地域住民に対して行うもので、大学院の授業公開（地域の会場でも実施）も含め、合計 10 講座を実施した。

② COC まちの談話室(旧名称:真駒内たまり場・しゃべり場):多世代・多セクターの交流事業

地域住民の生活の質（QOL）を維持・向上できる仕組みとして、地域住民の相互学習の場の開設と運営である。平成 26 年度は本学 COC キャンパス設置が予定されている旧真駒内緑小学校内に設置されるコミュニティカフェについて、地域住民とともにコンセプトや運営方法に係る座談会をワークショップ方式で４回実施し、検討を重ねた。

また、南区の防災対策調査を実施した。

③ COC まちの先生（旧名称：真駒内シニア・アカデミー）：地域住民が主役となる生涯学習事業

専門知識・技能を有する地域住民が講師となって地域住民の生涯学習を担う事業である。

平成 26 年度はそのための準備期間として「まちの先生運営会議」を地域住民とともに開催し、事業の企画・運営について地域住民と考えるイベントを４回実施し、平成 27 年度開講への準備を整えた。

COC キャンパス設置が予定されている旧真駒緑小学校は平成 26 年度は耐震改修工事期間中であった。そこで、上記の事業は南区民センターや、まちづくりセンター、コミュニティ・カフェなど、大学を離れ、地域の施設を活用して実施し、地域住民との交流を深めた。

なお、上記の３事業に加え、本学の特徴を活かした地域住民への交流事業として、地域住民の健康に関する相談､助言を行う「(仮称) SCU まちの保健室」の導入に向けたワーキングチームが発足し、検討を重ねている。

【４．広報・記録活動】

COC 広報企画推進チーム「広報班」では、本学の COC 事業や、これらに係る催事等の広報のため、COC Web サイトの管理･更新、案内ポスター、リーフレット等の制作を行った。あわせて、COC 事業の記録として、主要催事については映像記録撮影も行った。また、COC 事業の年度のまとめとしての報告書の編集・発刊を行った。

一方、COC の年度末成果報告会（フォーラム）をはじめ、COC 事業に係る大規模イベントの企画・運営は COC 広報企画推進チーム「催事班」担当業務として実施した。

【５．その他の活動】

平成 26 年 10 月には「札幌デザインウィーク」(主催：札幌デザインウィーク実行委員会、会場：札幌駅前通地下歩行空間）に参加し、本学 COC 事業のパネル展とイベントを実施し、市民に対して本学 COC 事業の PR を行った。

また､「南区健康まつり 2014」(主催：札幌市南区健康まつり実行委員会、会場：札幌市南区民センター）にも参加し、南区住民に対して COC 事業紹介や、転倒防止・誤嚥予防の情報提供をおこなった。

【６．COC 事業推進のための仕組】

事業推進組織は昨年度と同様、平成 26 年度も本学の教職員が一体となって取り組む全学体制としている。とくに教育改革を担う教育改革推進チームについては、全学委員会である教務・学生連絡会議や、両学部の教務委員会メンバーと一致するよう人員配置を行った。また、もう１名の COC 特任教員も平成 26 年度初頭に着任し、２名の COC 特任教員と３名の臨時職員の体制で COC 事務局を運営している。

COC 評価部門（構成：学内委員２名、学外委員５名）による平成 25 年度 COC 事業にかかる事業評価については、平成 26 年７月に実施し､「概ね良好、ほぼ計画どおり実施されている」と評価された。

さらに、本事業を円滑に進めていくため、札幌市の関係部課長、地域住民と大学が協議、情報交換を行う「COC 連絡会議」を設置し、定期的に意見交換を行うこととし、札幌市と地域住民、本学の連携･協力を維持・強化していく体制としており、平成 26 年度は 11 月に開催した。

平成 27 年度より旧真駒内緑小学校に COC キャンパスが開設され、名実ともに本格的に本学 COC 事業を推進していく予定である。COC キャンパスへの導入機能、各室の活用方法とレイアウト、COC キャンパスの管理・運営方法、サイン計画についても詳細の検討を加え、オープニングに向けた準備を進めている。

COC学内組織体制2014

COC推進会議

議長：蓮見学長

メンバー：中村副学長、酒井デザイン学部長、樋之津看護学部長、城間デザイン研究科長、上遠野地域連携研究センター長、山本附属図書館長、林事務局長、中原COC部門長（事業担当者）

事業評価部門

中村副学長（事業評価部門長）、城間研究科長D、細川北大教授、瀬戸口北大教授、遠藤道総研理事、佐藤シーニックバイウェイ藻岩定山渓監事、元木札幌市改革推進部長

全教職員の参加により推進

学内委員会

◇教務・学生連絡会議
- ・D教務委員会
- ・N教務委員会
- ・D学生支援委員会
- ・N学生支援委員会

◇地域連携研究センター
◇図書館運営会議
◇FD委員会
◇倫理委員会
◇総務委員会

事務局

◇総務課
◇経営企画課
◇地域連携課
◇学生課
◇桑園担当課

プロジェクトチーム

◉西村総務課長A
◉上田地域連携課長A
◎藤崎経営企画係長A
○髙橋地域連携課員A
○長谷経営企画課員A
○植田経営企画課員A
○三林総務課員A
○佐藤(基)総務課員A
○山田学生課員A
○下村桑園事務室員A
○龍山COC臨時職員
○髙橋COC臨時職員
○佐藤COC臨時職員

COC企画・推進グループ

幹事会

COC部門長(事業担当者)：中原教授D

●酒井教授D
●中原教授D
◉細谷教授D
◉斉藤(雅)准教授D
◉柿山准教授D
◉西村総務課長A
◎山田准教授D
◎杉本講師D
○籔谷特任助教
●樋之津教授N
●スーディ神崎教授N
◉河原田教授N
◉貝谷准教授N
◉上田地域連携課長A
◎清水准教授N
◎守村准教授N
◎藤崎経営企画係長A
○中田特任助教

（相談役　蓮見学長、林事務局長）

● チームリーダー
◉ 代表幹事（チームサブリーダー+班長）
◎ 幹事（班長）
○ メンバー

教育改革推進チーム

「COCカリキュラム」の企画・推進

●樋之津教授N

◉細谷教授D
○原教授D
○町田教授D
◉河原田教授N
○定廣教授N
○上村准教授N
○古都准教授N
○山本(真)講師N
○柏倉助手N
○星助手N

連携

教務・学生連絡会議
- デザイン学部教務委員会
- 看護学部教務委員会

○籔谷COC特任助教
○中田COC特任助教

【事務局プロジェクトチーム】
○山田学生課員A／○下村桑園事務A
○龍山COC臨職
○髙橋COC臨職／○佐藤COC臨職

研究企画推進チーム

「COCリサーチ」の企画・推進

●スーディ神崎教授N

◎山田准教授D
○石井教授D
○杉教授D
○武邑教授D
○矢部教授D
○張准教授D
◉貝谷准教授N
○川村教授N
○村松准教授N
○神島講師N
○山内講師N
○渡邊講師N
○檜山助教N
○御厩助手N

○籔谷COC特任助教
○中田COC特任助教

【事務局プロジェクトチーム】
○髙橋地域連携課員A
○龍山COC臨職
○髙橋COC臨職／○佐藤COC臨職

学び舎企画推進チーム

「SCUまちの学校」の企画・推進

●酒井教授D

＜SCUまちの教室＞班

◉斉藤(雅)准教授D
○吉田(恵)教授D
○松井講師D
○三谷講師D
○松浦教授N
○菅原准教授N
○山田准教授N
○太田講師N
○多賀助教N

＜SCUまちの談話室＞班

○羽深教授D
○武田准教授D
○片山講師D
○小宮講師D
○福田講師D
◎清水准教授N
○小田教授N
○大野准教授N
○原井講師N
○藤井講師N
○田仲助教N

＜SCUまちの先生＞班

◎杉本講師D
○石崎教授D
○上田講師D
○金子助教D
○坂倉教授N
○菊地准教授N
○櫻井講師N
○坂東助教N
○横川助手N

○籔谷COC特任助教
○中田COC特任助教

【事務局プロジェクトチーム】
○藤崎経企係長A／○植田経企課員A
○龍山COC臨職
○髙橋COC臨職／○佐藤COC臨職

広報企画推進チーム

COC事業の広報企画・推進

●中原教授D

＜COC広報＞班

◉柿山准教授D
○吉田(和)教授D
○大渕講師D
○須之内助教D
○宮崎教授N
○三上講師N
○小田嶋助手N

＜COC催事＞班

○齋藤(利)教授D
○石田講師D
○松永講師D
○長谷川助教D
◎守村准教授N
○猪股教授N
○田中講師N
○工藤助教N
○石引助手N

○籔谷COC特任助教
○中田COC特任助教

【事務局プロジェクトチーム】
○藤崎経企係長／○長谷経企課員A
○龍山COC臨職
○髙橋COC臨職／○佐藤COC臨職

Ⅲ．活動報告

0. 活動履歴

4 月

4 日　ガイダンスで学生に COC アンケートを実施
8 日　学び舎・リーダー班長会議
9 日　第 1 回 COC 推進会議（出席者：教員 9 名・事務局 8 名）
　　学び舎・SCU まちの先生班　第 1 回班会議
10 日　スタートアップ演習オリエンテーション（COC 説明プレゼンテーション公開）
12 日　大学院授業公開打合せ（カフェ minna）
14 日　COC 共同研究費計画書提出締切
　　SCU まちの教室大学院授業公開「ソシオデザイン特論」（担当：蓮見学長）
15 日　大阪府立大学 視察対応
16 日　札幌大学インターコミュニケーションセンター：SUICC 視察（視察者：学び舎、事務局）
17 日　スタートアップ演習（第 2 回）
　　学び舎班・SCU まちの教室班 第 1 回班会議
18 日　学び舎班・SCU まちの談話室班 第 1 回班会議
　　研究チーム・第 1 回チーム会議
21 日　SCU まちの教室大学院授業公開「ソシオデザイン特論」（担当：蓮見学長）
22 日　東海大学（北海道）打合せ
24 日　スタートアップ演習（第 3 回）
　　札幌市立大学公式 Web の COC-Web 新バナーを更新
28 日　第 1 回 COC 幹事会（出席者：教員 10 名・事務 7 名）
　　SCU まちの教室大学院授業公開「ソシオデザイン特論」（担当：蓮見学長）
30 日　COC 共同研究費審査会

5 月

1 日　スタートアップ演習地域訪問
7 日　第 2 回 COC 推進会議（出席者：教員 8 名・事務局 8 名）
　　学び舎班・SCU まちの先生班 第 2 回班会議
8 日　スタートアップ演習（第 5 回）
9 日　札幌市子ども未来局との打合せ（学び舎・SCU まちの談話室班（コミカフェ））
13 日　映像取扱い打合せ（広報・COC 広報班）
14 日　教育チーム・第 1 回チーム会議
15 日　スタートアップ演習（第 6 回）
　　COC 共同研究費再審査会
20 日　学び舎班・SCU まちの談話室班 コミュニティ・カフェグループ会議
22 日　スタートアップ演習（第 7 回）
　　COC 共同研究費採択通知
23 日　学び舎班・SCU まちの談話室班 地域防災グループ会議
28 日　研究チーム・第 2 回チーム会議
　　広報班 COC-Web 更新方針打合せ
29 日　スタートアップ演習（第 8 回）
　　学び舎班・SCU まちの教室班 第 2 回班会議
　　札幌市南区健康まつり打合せ（COC 催事班）

6 月

2 日　COC 学内組織新体制発令
　　SCU まちの教室公開講座（斉藤雅准教授：札幌市芸術の森地区まちづくりセンター共催）
　　「国道 453 号線をグリーンカーテンでつなげよう」
　　SCU まちの教室大学院授業公開「ソシオデザイン特論」（担当：蓮見学長）
3 日　第 2 回 COC 幹事会（出席者：教員 8 名・事務局 8 名）
4 日　第 3 回 COC 推進会議（出席者：教員 8 名・事務局 8 名）
　　千葉大学視察
5 日　柏の葉アーバンデザインセンター・東京大学フューチャーセンター視察
　　南区ニーズ調査データ活用要領配信
6 日　横浜市立大学視察
9 日　SCU まちの教室 大学院授業公開「ソシオデザイン特論」（担当：蓮見学長）
10 日　学び舎班・SCU まちの談話室班 地域防災グループ会議

11 日　学び舎班・SCU まちの先生班 第 3 回班会議
　　教育チーム・第 2 回チーム会議
　　保養センター駒岡、札幌市保健福祉局高齢福祉課と打合せ（SCU まちの教室班）
12 日　SCU まちの教室公開講座企画募集要領配信
　　スタートアップ演習（第 9 回）
14 日　オープンキャンパスで COC 事業紹介パネル展示
16 日　SCU まちの教室大学院授業公開「ソシオデザイン特論」（担当：蓮見学長）
17 日　学び舎班・SCU まちの談話室班 コミュニティ・カフェグループ会議
19 日　スタートアップ演習（第 10 回）
　　学び舎班・SCU まちの談話室班 地域防災グループ会議
20 日　南区連合町内会長連絡協議会 6 月定例会に参加
21 日　親子メカトロ教室（担当：三谷講師：日本機械学会主催、SCU まちの教室班共催）
23 日　広報チーム・第 1 回チーム会議
　　SCU まちの教室大学院授業公開「ソシオデザイン特論」（担当：蓮見学長）
24 日　札幌市市民まちづくり局地域計画課と打合せ
　　学び舎班・SCU まちの談話室班 第 2 回班会議
26 日　スタートアップ演習（第 11 回）
　　南区へニーズ調査結果傾向報告
27 日　第 3 回 COC 幹事会（出席者：教員 13 名・事務局 7 名）
30 日　大学院授業公開「ソシオデザイン特論」（担当：蓮見学長）

7 月

2 日　学び舎班（SCU まちの先生班）・全学 FD 研修会
　　「教員および地域住民ファシリテーター養成に向けて」
　　まちの先生大集合！（第 1 回まちの先生運営会議）
3 日　スタートアップ演習（第 12 回）
　　学び舎班・SCU まちの談話室班 コミュニティ・カフェグループ会議
8 日　COC 意見交流会～清華大学蒋紅斌准教授
　　デザインウィーク現地視察（COC 催事班、SCU まちの先生班）
　　教育チーム・第 3 回チーム会議
9 日　第 4 回 COC 推進会議（出席者：教員 7 名・事務局 8 名）
　　学び舎班・SCU まちの先生班 第 4 回班会議
10 日　学び舎班・SCU まちの教室班 第 3 回班会議
　　スタートアップ演習（スカイウェイ展示（～ 24 日）・ポスターセッション）
11 日　学び舎班・リーダー班長会議
14 日　KDDI との打合せ（SCU まちの談話室班（防災））
　　札幌市子ども未来局との打合せ（SCU まちの談話室班（コミカフェ））
15 日　COC 評価部門会議
17 日　スタートアップ演習リハーサル
18 日　学部連携演習打合せ
23 日　南区健康まつり打合せ（COC 催事班）
　　南区地域連携課と情報交換
24 日　スタートアップ演習 活動報告会
29 日　研究チーム・調査報告書作成担当会議
　　学び舎パンフレット作成打合せ（COC 広報班、学び舎）
30 日　第 4 回 COC 幹事会（出席者：教員 15 名・事務局 8 名）
　　教育チーム・第 4 回チーム会議
　　研究チーム・第 4 回チーム会議
　　デザインウィーク実行委員会（COC 催事班）

8 月

1 日　学び舎班・SCU まちの談話室班 コミュニティ・カフェグループ会議
3 日　ケアとクリエイティブをかんがえる「ケアクリ会議」参加
4 日　ケアーズ白十字訪問看護ステーション視察
5 日　教育チーム・全学 FD 研修会「カリキュラムにおける地域志向を考える」
　　まちづくりセンター所長会議に参加（教育）
21 日　学び舎パンフレット（暫定版）完成
24 日　SCU まちの教室公開講座「メカトロ教室」（担当：三谷講師 保養センター駒岡健康まつり会場）
25 日　宇都宮大学視察 COC 事業聴き取り調査
　　SCU まちの談話室 第 1 回座談会「コミュニティカフェを考えよう !!」
26 日　南区連合町内会長連絡協議会 8 月定例会に参加（教育）
27 日　定山渓地区防災訓練を視察（SCU まちの談話室班（防災））
28 日　KDDI 株式会社と意見交換（SCU まちの談話室班（防災））
29 日　第 5 回 COC 幹事会（出席者：教員 12 名・事務局 8 名）

9 月

3 日　学び舎班・SCU まちの先生班 第 5 回班会議
　　第 5 回 COC 推進会議（出席者：教員 6 名・事務局 7 名）
4 日　芸術の森地区町内会と意見交換会（SCU まちの談話室班（防災））
　　学び舎班・SCU まちの談話室 地域防災グループ会議
　　さっぽろデザインウィーク実行委員会（COC 催事班）
5 日　保養センター駒岡と打合せ（SCU まちの教室班）
9 日　小樽商科大学 COC 事業聴取調査
　　学び舎班・リーダー班長会議
10 日　教育チーム・第 5 回チーム会議
　　COC 撮影業者映像編集方針打合せ（COC 広報班）
11 日　さっぽろデザインウィーク打合せ（COC 催事班）
13 日　研究チーム・COC 共同研究レクチャー・意見交換会
16 日　研究チーム・第 6 回チーム会議
17 日　もなみ学園訪問調査（SCU まちの談話室班（防災））
18 日　常盤中学校訪問調査（SCU まちの談話室班（防災））
　　さっぽろデザインウィーク実行委員会（COC 催事班）
19 日　SCU まちの教室公開講座打合せ（札幌芸術の森：矢部教授）
20 日　大学祭（芸術の森）スタートアップ演習パネル展示　事業紹介パネル展示
21 日　大学祭（芸術の森）スタートアップ演習パネル展示・発表会　事業紹介パネル展示
22 日　学び舎班・SCU まちの談話室班 コミュニティ・カフェグループ会議
　　石山東小学校訪問調査（SCU まちの談話室班（防災））
23 日　大学祭（桑園）事業紹介パネル展示
24 日　第 6 回 COC 幹事会（出席者：教員 13 名・事務局 8 名）
　　第 2 回 まちの先生運営会議
25 日　南区高齢者ニーズ調査結果報告会
　　学部連携演習担当者会議
26 日　後期ガイダンス（デザイン学部学年別に COC STUDENT PLAZA について説明）
30 日　学部連携演習（第 1 回）ガイダンス

10 月

1 日　第 6 回 COC 推進会議（出席者：教員 8 名・事務局 8 名）
3 日　札幌市子ども未来局と打合せ（SCU まちの談話室班（コミカフェ））
7 日　学部連携演習（第 2 回）
　　学び舎班・リーダー班長会議
　　南区役所地域振興課・福祉課訪問調査（SCU まちの談話室班（防災））
9 日　COC-Web 更新に関する打合せ（COC 広報班）
　　常盤小学校訪問調査（SCU まちの談話室班（防災））
10 日　教育チーム・第 6 回チーム会議
　　教育チーム・学部連携演習効果検証ワーキンググループ　第 1 回会議
14 日　学部連携演習（第 3 回）地域訪問
16 日　芸術の森地区まちづくりセンター訪問調査（SCU まちの談話室班（防災））
　　広報チーム・第 2 回チーム会議
17 日　COC STUDENT PLAZA 説明（看護学部 4 年生）
18 日　SCU まちの教室公開講座「札幌の芸術の森：紅葉の中の彫刻」（担当：矢部教授）
　　SCU まちの談話室 第 2 回座談会「コミュニティカフェを考えよう !!」
20 日　COC STUDENT PLAZA 説明（看護学部 2 年生）
　　学び舎班・SCU まちの教室班 第 4 回班会議
21 日　学部連携演習（第 4 回）
22 日　さっぽろデザインウィーク 2014 展示（～ 26 日：COC 催事班）
　　研究チーム・第 6 回チーム会議
23 日　南区健康まつりに参加（COC 催事班）
　　COC STUDENT PLAZA 説明（看護学部 3 年生）
25 日　さっぽろデザインウィーク 2014 イベント（COC 催事班・SCU まちの先生班）
28 日　学部連携演習（第 5 回）
29 日　SCU まちの教室公開講座「札幌市立大学看護学部のモンゴル支援」（担当：松浦教授、大野准教授）
30 日　第 7 回 COC 幹事会（教員 14 名・事務局 10 名）
　　学び舎班・SCU まちの談話室班 地域防災グループ会議

11 月

4 日　学び舎班・SCU まちの談話室班 コミュニティ・カフェグループ会議
　　学部連携演習（第 6 回）
5 日　第 7 回 COC 推進会議（出席者：教員 8 名・事務局 8 名）
　　学び舎班・SCU まちの教室班 第 5 回班会議

6日　教育チーム・第7回チーム会議
　　教育チーム・学部連携演習効果検証ワーキンググループ　第2回会議
7日　福井県まちの保健室視察
8日　SCUまちの教室公開講座「アメリカ小説の女性たち1」（担当：松井講師）
10日　COC海外（北欧）視察（～18日）
11日　SCUまちの教室大学院授業公開「建設環境学特論」（担当：斉藤雅准教授）
　　学部連携演習（第7回）地域訪問
14日　SCUまちの教室大学院授業公開「建設環境学特論」（担当：斉藤雅准教授）
15日　学部連携演習（第8回）
18日　第1回COC連絡会議
19日　教育チーム・全学FD研修会「地域志向性を取り入れたカリキュラムを考える」
21日　第8回COC幹事会（出席者：教員11名・事務局9名）
　　SCUまちの教室大学院授業公開「建設環境学特論」（担当：斉藤雅准教授）
　　学び舎班・SCUまちの教室班 第5回班会議
25日　SCUまちの教室大学院授業公開「建設環境学特論」（担当：斉藤雅准教授）
　　学び舎班・SCUまちの談話室 地域防災グループ会議
　　第3回 まちの先生運営会議
26日　研究チーム・第7回チーム会議
29日　SCUまちの教室公開講座「アメリカ小説の女性たち2」（担当：松井講師）

12月
2日　SCUまちの教室大学院授業公開「建設環境学特論」（担当：斉藤雅准教授）
　　学び舎班・SCUまちの先生班 第8回班会議
3日　教育チーム・第1回教育改革に係る有識者会議
　　第8回COC推進会議（出席者：教員8名・事務局8名）
4日　教育チーム・第8回チーム会議
5日　学び舎班・SCUまちの談話室 地域防災グループ会議
　　学び舎班・SCUまちの談話室 コミュニティ・カフェグループ会議
9日　SCUまちの教室大学院授業公開「建設環境学特論」（担当：斉藤雅准教授）
10日　学び舎班・リーダー班長会議
16日　学部連携演習（第9回）
19日　第9回COC幹事会（出席者：教員13名・事務局8名）
20日　SCUまちの談話室 第3回座談会「コミュニティカフェを考えよう!!」
　　SCUまちの教室公開講座「アメリカ小説の女性たち3」（担当：松井講師）
22日　「（仮称）SCUまちの保健室」検討ワーキンググループ 第1回会議
　　学び舎班・SCUまちの教室班 第6回班会議
25日　教育チーム・学部連携演習効果検証ワーキンググループ　第3回会議

1月
6日　学部連携演習（第10回）
7日　第9回COC推進会議（出席者：教員8名・事務局8名）
8日　教育チーム・第9回チーム会議
　　学び舎班・リーダー班長会議
10日　SCUまちの教室公開講座「アメリカ小説の女性たち4」（担当：松井講師）
13日　学部連携演習（第11回）発表会・展示（～31日）
14日　学び舎班・SCUまちの談話室班 第3回班会議
　　北海道看護協会訪問調査（菊地准教授、坂東助教、中田特任助教）
16日　第10回COC幹事会（出席者：教員14名・事務局9名）
20日　SCUまちの教室大学院授業公開「建設環境学特論」（担当：斉藤雅准教授）
28日　研究・第8回チーム会議
　　「（仮称）SCUまちの保健室」検討ワーキンググループ 第2回会議
29日　学び舎班・SCUまちの先生班 第9回班会議
31日　SCUまちの教室公開講座「アメリカ小説の女性たち5」（担当：松井講師）

2月
2日　学び舎班・SCUまちの談話室班 地域防災グループ会議
3日　学び舎班・SCUまちの談話室班 コミュニティ・カフェグループ会議
　　学び舎班・SCUまちの教室班 第7回班会議
　　教育チーム・第10回チーム会議
4日　広報チーム・第3回チーム会議
　　第10回COC推進会議（出席者：教員8名・事務局8名）
10日　教育チーム・全学FD研修会「異分野連携科目（地域セミナー）を実現する」
　　第4回 まちの先生運営会議
12日　学び舎・リーダー班長会議

13 日　第 11 回 COC 幹事会（出席者：教員 14 名・事務局 10 名）
名古屋学院大学視察・COC 事業聴き取り調査
SCU まちの教室公開講座「真駒内のまちづくりを考える」（担当：杉本講師・籔谷特任助教）
20 日　さっぽろデザインウィーク打合せ（COC 催事班）
21 日　SCU まちの談話室 第 4 回座談会「コミュニティカフェを考えよう !!」
24 日　学び舎・SCU まちの談話室班 第 4 回班会議
札幌市市民まちづくり局との打合せ（広報）
26 日　研究・第 9 回チーム会議
27 日　「地（知）の拠点整備事業シンポジウム～ COC 全国ネットワーク化事業～」（～ 28 日）
ポスターセッション参加

3 月

3 日　教育・第 11 回チーム会議
学び舎・SCU まちの先生班 第 10 回班会議
「（仮称）SCU まちの保健室」検討ワーキンググループ 第 3 回会議
4 日　第 11 回 COC 推進会議
7 日　学び舎・まちの談話室コミュニティ・カフェ運営会議
11 日　第 12 回 COC 幹事会
16 日　COC 事務局が COC キャンパスへ移転
17 日　学び舎・SCU まちの教室班 第 8 回班会議
21 日　札幌市立大学 COC キャンパス まちの学校プレオープン！
COC フォーラム 2015 ／学部連携演習発表会／まちの先生プレ開講／まちの保健室プレ開室
／ My 防災セットを考えよう／コミュニティ・カフェプレオープン／カフェテーブルをつくろう
／学生企画「こすってでるでる！もようがいっぱい！」
／パネル展示～事業概要・成果、健康に関する高齢者ニーズ調査、
学部連携演習、コミュニティカフェ計画他

1. 教育改革推進チーム

チームリーダー：樋之津 淳子
代表幹事：細谷 多聞・河原田 まり子
メンバー：デザイン学部：原 俊彦・町田 佳世子
看護学部：定廣 和香子・古都 昌子・上村 浩太・山本 真由美・柏倉 大作・星 幸江

Ⅰ　本班の平成 26 年度の事業概要・目的

本班は、COC の関連するカリキュラムの編成を目指し、「地域志向科目の増強に向けた検討」と「地域志向科目のシラバスへの反映」の２点を目的として活動を行ってきた。特に本年度は、「地域志向科目」について合計３回の FD を実施することで全学の意見調整を行い、来年度のシラバスへの記載調整を行った。また、新設科目である「学部連携基礎論」と「地域セミナー」の実施計画を立てると共に、従来行ってきた「学部連携演習」の受講学生データ（個人活動申告書）の分析を行い、来年度以降の実施内容やスケジュールに反映させる活動を行った。

Ⅱ　本班の平成 26 年度の役割

昨年度の活動から、本学が「地域志向科目」をどのように捉え、位置付けるかを、全教員で協議することの重要性を明らかにできた。そこで本年度は、「地域志向科目」について、全教員が共通認識を持つことと、それらをカリキュラムに反映させる具体的な方法についての知識を共有するための活動を行うことにした。また、新設科目である「学部連携基礎論」と「地域セミナー」の具体的な実施プランを作成し、これらを従来の「スタートアップ演習」と「学部連携演習」との連携関係の中に位置付け、再設計を行った。この作業の過程では、従来の「学部連携演習」の授業内容の確認作業を受講学生の「個人活動申告書」の分析で行うこととした。

Ⅲ　平成 26 年度の活動

1　事業計画

・地域志向科目に対する教員の共通認識を培う。
・地域志向科目のシラバスへの反映を行う。
・新設科目の内容を企画し、関連科目との教育的な連携体制を設計する

2　主な活動

8 月「地域志向を考える」

ミニレクチャーを踏まえ、デザイン学部と看護学部教員の混成の５グループで「地域志向」とは何かを協議した。全体討論では、これらのグループディスカッションの経過報告と、それらへの意見交換を行った。後日、本 FD の討議内容をまとめ、本学が考える「地域志向科目の特性」を明らかにした。

11 月「地域志向性を取り入れたカリキュラムを考える」

「統合カリキュラム編成の実際」のレクチャーを通して、カリキュラム編成の基礎知識を共有・確認した後にカリキュラムにおける地域志向性を高める前提として、カリキュラムの主要概念としての「地域社会」の定義および内容の諸要素（ミニマムエッセンシャルズ）の案について意見交換を行った。検討を通して、本学カリキュラムにおいて既に「地域社会への貢献」が重要視されており、カリキュラムを変更するのであれば、これに基づいた教育内容がどのように展開されているのかというカリキュラム評価を行う必要があることが課題となった。

２月「異分野連携科目（地域セミナー）を実現する」

新設科目「地域セミナー」の実施に向け、その目的に対する共通認識を培うことを目的とした。また、現実的な問題として、実現可能な授業形式、および時間や費用に係る障害要因を予め整理し、全教員がこれらを共有することで、より確実な授業計画が立てられるようアイディアの交換を行った。

通年「学部連携基礎論」「地域セミナー」の授業内容の検討

平成 27 年度から試行を行う「地域セミナー」の実施に向け、授業実施の時期や方法について検討を行った。その結果、(1) 授業の進行管理を適切に行うことができるか　(2) プロジェクト学習の実施成

果を客観的に評価可能か　(3) 当該演習を受講する学生（４年生）の学習上の負担が適切であるかの３点について試行で検証する必要があることがわかった。また、「学部連携基礎論」については、従来、学部連携演習で行っていた地域アセスメントポイントに基づく調査を授業内容とすることで、学部連携演習との連続性を保障し、提案の精度を高める改善を行うプランを立案した（図１）

通年「学部連携演習」の授業内容の検証

平成 25 年度から学部連携演習では、成績評価のために「個人活動申告書」を受講学生に提出させている。この申告書は、演習の目的に対する教育的な効果や、演習を行う上で障壁となる要素等が、学生の言葉で記録されたものである。本年度はこれら記載内容の分析を行い、演習の目的が充分に達成されていること（デザインと看護の連携、グループ内コミュニケーション能力の向上等）を確認した。また、こうした目的を達成するために、異分野間の相互理解や協力の重要性といった課題にも気付かせることができていたことを確認した（表１～３）。

図１. 教育のプロセス

3　評価

本年度、第１の目標とした、「地域志向科目に対する教員の共通認識を培う」ことは、３回のFDを行うことで強化できたと考える。第２の目標である「地域志向科目のシラバスへの反映」については、これらの活動を踏まえ、現時点での反映が達成されたと考える。第３の目標である「新設科目の内容を企画し、関連科目との教育的な連携体制を設計する」については、従来教育の確認（学部連携演習の授業内容の検証）を踏まえ、来年度のスタートアップ演習・学部連携演習の内容変更や新設科目の試行計画が立ったことから、達成できたと考える。

Ⅳ　今後の課題

教育チームではこれまで、教育内容のみからCOCに関連したカリキュラム計画を練ってきたが、教育を地域と協力して推進するためには、大学と地域の間にギブアンドテイクの関係が必要である。来年度はカリキュラムのみならず、事業全体の中での教育の位置付けを明確化すると共に、平成28年度に予定されている新カリキュラムの導入にあわせて学内合意を形成しながら着実にすすめていきたい。

表１　デザイン学部と看護学部の連携の成果

カテゴリー	サブカテゴリー
自己の専門性の理解を深めることができた	自分を内省でき、専門性を高めることができた
	異なる視点や意見が刺激になった
異なる専門分野の学びから視野の広がりを実感した	異なる専門分野のことを学ぶことができた
	デザイン学部と看護学部との関わりを通して視野が広がった
協同して取り組む重要性を学べた	お互いに協力することを学べた
	役割分担によって効率性を高めた
	役割分担によってよりよい成果物につながった
課題解決の一連の過程を学ぶことができた	課題解決の過程で専門性を尊重することができた
	課題解決までの一連の過程を学ぶことができた
実践を通してコミュニケーションの意義や方法を修得できた	建設的な議論の大切さを実感できた
	コミュニケーションの方法論を学ぶことができた
	チームの輪を感じることができた
地域を知り、課題解決への具現化を体験できた	地域を深く知る経験となった
	地域住民の関心・好意が実感できた
	地域に役立つものが実現できた
相互の専門性を活かして連携成果を可視化できた	異なる専門的知識・技術を生かした提案ができた
	より実現性の高い成果物を作り上げることができた
社会人に向けての準備状況を高めることができた	社会に出て仕事したような実践的な内容を体験できた
	社会における人との接し方を学ぶことができた
満足感や達成感を得ることができた	悩んできた過程を乗り越えることで達成感が得られた
	仲間との活動が良い思い出になった
	成果物を完成させたことが嬉しかった

表２　デザイン学部と看護学部の連携のための課題

カテゴリー	サブカテゴリー
異分野の違いを理解し、認め合う	専門の違いからの難しさ
	お互いの違いを知り、受け入れる
異分野の違いを超えて、納得のいく議論を行う	専門の違いから、意思疎通が難しい
	専門を超えて納得のいく意見交換を行う
異分野の違いを活かし、折り合いをつけて計画を遂行する	目標や方向性を明確にし、共有する
	お互いの知識・技術・視点を把握し、活かす
	お互いの違いを尊重しながら折り合いをつける
異分野の違いによる偏りを少なくし、バランスよく役割を分担する	役割分担に偏りがある
	バランスよく役割を分担する
地理的な遠さとカリキュラムの違いの中で効率的な連絡方法や時間管理を行う	地理的な遠さによる連絡や集合が難しい
	スケジュール調整が難しい
	情報を共有するために連絡方法を工夫する
	限られた時間で効率的に時間を使う

表３　学部連携演習の到達目標の達成度（2013 年度）

下位目標（評価基準）		全体（n=171）	
		中間 n（%）	最終 n（%）
1	課題解決プロセスの構成要素を述べる（ミニレクチャー）	123（71.9）	141（82.5）
2	デザインと看護が連携して解決する課題（連携課題）を発見する為に必要な情報を収集する	134（78.4）	147（86.0）
3	収集した情報に基づき、発見した連携課題の適切性を検討する	129（75.4）	137（80.1）
4	検討結果に基づき、連携課題（テーマ）を明確化、焦点化する	112（65.5）	139（81.3）
5	明確化・焦点化した連携課題を解決するための目標（成果）を設定する	79（46.2）	128（74.9）
6	目標を達成するための計画を立案（企画）する	76（44.4）	122（71.3）
7	計画を実施する（成果を算出する）	46（26.9）	137（80.1）
8	実施過程で直面した問題を分析する	79（46.2）	129（75.4）
9	問題を克服するための効果的な方法を提案する	47（27.5）	116（67.8）
15	課題解決に向けて、作業をすすんで担当する	97（56.7）	130（76.0）
16	グループメンバーの意見を傾聴する	157（91.8）	165（96.5）
17	自分の意見を相手にわかりやすく伝える	98（57.3）	131（76.6）
18	グループメンバーの意見を調整し、合意を形成する	73（42.7）	106（62.0）
19	それぞれの領域・専門性を超えて、自らの役割を見いだす	94（55.0）	144（84.2）
平均値		96（56.1）	133（78.1）

※各項目の数値は「達成できた」と回答した人数と割合を示している

2. 研究企画推進チーム

チームリーダー：スーディ神崎 和代
代表幹事：貝谷 敏子・山田 良
メンバー：デザイン学部：武邑 光裕・矢部 和夫・石井 雅博・張 浦華
看護学部：川村 三希子・村松 真澄・神島 滋子・山内 まゆみ・渡邊 由加利・檜山 明子・御厩 美登里

Ⅰ　本班の平成 26 年度の事業概要・目的

地域課題の解決に寄与し、ウェルネス×協奏型地域社会の構築を目的とした研究「COC リサーチ」の企画・推進を図る。

Ⅱ　本班の平成 26 年度の役割

・ウェルネスサイエンス研究推進
地域課題の解決に寄与する研究「COC リサーチ共同研究」の採択を行い、研究の支援を行う。
・研究基盤の整備・研究関連調査
高齢者ニーズ調査結果の分析・考察を行い、事業全体の活動基礎資料として活用可能となる整備を行う。

Ⅲ　平成 26 年度の活動

1　事業計画

・ウェルネスサイエンス研究推進
地域課題の解決に寄与する研究「COC リサーチ共同研究」の支援を行い、成果報告書の書式を整備する。
・研究基盤の整備・研究関連調査
高齢者ニーズ調査の結果を基礎資料として活用できる体制を整える。

2　主な活動

・ウェルネスサイエンス研究推進
1）「COC リサーチ共同研究」学内公募より審査を行い、6 件の応募から 5 件を採択した。教員の応募率は 7.4％で採択率は 83.3％であった。採択された研究課題一覧は表 1 に示す。
2）COC リサーチ共同研究費受給者への支援体制を整え、採択者の研究の推進を図った。支援体制は資料 1 を参照。
3）COC 共同研究の報告書形式を作成
研究成果の報告書書式を作成し、採択者へ通知を行った。

表 1：2014 年　COC 共同研究費の採択について

1．　応募状況

教員総数	応募数	応募率(%)
81	6	7.4

2．　採択状況

応募数	採択	採択率(%)
6	5	83.3

3．　採択者一覧

No	研究科題名	職位	研究代表者
1	人生の終焉を自分らしく生ききるためのガイド −意思決定を支援する事前指示書の作成と検証−	教授	スーディ神崎 和代
2	市民参画型の SCU 模擬患者養成プログラムの開発 ～共に育み合う市民主体の学習の場づくりを目指して	教授	河原田 まり子
3	リソースナースの地域活用によるシームレスな 連携体制の構築と効果の検証	准教授	貝谷 敏子
4	地域に根差した盆踊り文化の記録と継承に関する研究	講師	松永 康佑
5	札幌市南区における高齢者の外出困難要因の明確化	特任助教	中田 亜由美

・研究基盤の整備・研究関連調査
1）学内教員が利用可能となるデータシステムを作成し、高齢者ニーズ調査の生データの活用を推進した。2015 年 2 月の時点で 13 名の教員の利用があり、いずれも COC 事業の基礎資料として活用されていた。
2）高齢者ニーズ調査の分析を行い、協力者である南区住民を対象とした報告会を 2014 年 9 月 25 日に開催した。報告会に関しては資料 2 を参照。参加者数は 23 名であった。
3）高齢者ニーズ調査報告書を作成し、町づくりセンター、札幌市、南区役所、関心のある区民の皆様へ配布を 3 月に行う。

3　評価

平成 26 年度の事業計画は計画通りに遂行することができた。

Ⅳ　今後の課題

1）「COC リサーチ共同研究」学内公募の教員応募率が低いため、次年度はリサーチへの応募の推進を図るために、研究の支援を引き続き実施する。

2）高齢者ニーズ調査のデータ学内教員に活用されているが、次年度は地域志向型研究の成果発表に結び付いているか調査し、研究の推進を図る。

3）平成 26 年度の高齢者ニーズ調査を量・質的両面からさらに分析し、論文あるいは学会発表での公表を検討する。

資料１：COC リサーチ共同研究費受給者への支援体制

COC 共同研究による研究者への支援体制

COC 研究企画推進チームでは、COC 共同研究費応募者に対して以下の研究支援体制を整えて、研究の推進を図ります。

問い合わせ先
　COC 事務局）高橋裕美、佐藤寿子
　E-mail：coc-kk@scu.ac.jp　　FAX:011-592-5389
　※ 内容を正確に聴き取り、記録に残すため E-mail または FAX のみで対応いたします
　※ フローは別紙の通りです

① COC 共同研究費応募要項の説明
　・全教員に対して、HP への掲載およびメール配信で連絡する
　・新任教員に対しては地域連携課に依頼し、他学内研究費説明と同様に説明を実施する(4 月 1 日)

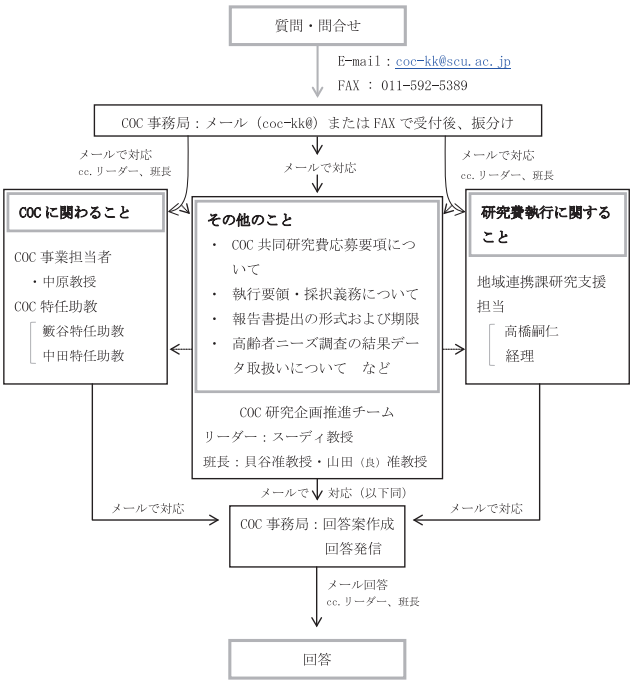
② 研究費執行、報告書提出に関するオリエンテーション
　・執行要領・採択義務などについては HP 掲載、及び採択通知と共に周知する
　・報告書提出は所定の形式および期限を研究代表者へ周知する
　・研究費執行に関する質問には随時対応を行う

③ 高齢者ニーズ調査の結果データへのアクセス等の整備
　・データアクセス要領については HP に掲載し、基礎データとしての活用を推進する

COC 共同研究による研究者への支援体制　別紙

COC 共同研究による研究者への支援体制
問い合わせフロー

※ 内容を正確に聴き取り、記録に残すため E-mail または FAX のみで対応いたします
※ フローは以下の通りです



※幹事会には定期会議で報告し、
　必要があれば適宜事業責任者の中原先生・幹事会に相談

COC 研究企画推進チーム

ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業

地(知)の拠点

健康に関するニーズ調査結果

2014年9月25日
公立大学法人札幌市立大学
COC事業・研究企画推進チーム

1

地(知)の拠点整備事業について COC事業

文部科学省が、自治体と連携し全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献をすすめる大学を支援する事業。

札幌市立大学は平成25年に全国52大学の1大学として選定された。

札幌市立大学テーマ
ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業

2

今回のニーズ調査について

【調査の目的】

COC事業の取組に際し、地域住民のニーズに沿った事業展開に役立てるため、現状を把握とニーズを発掘するために行う。

【対象者】

南区に在住する65歳以上の住民。

南区役所が住民台帳から無作為に抽出した住民9000人に対し、郵送にて配布した。

3

回収数2999人(回収率33.2%)

比較データ

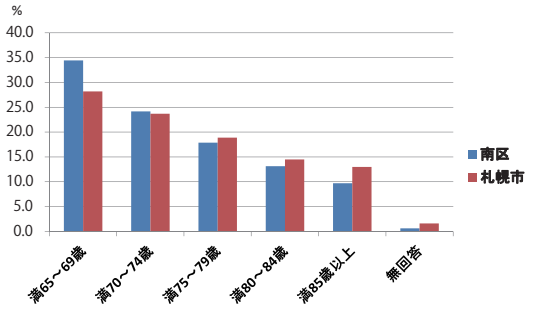
札幌市：平成25年度「高齢者に関する意識調査」
データ：65歳以上　9947人

全国データ

・平成25年度「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」
内閣府　データ：:60歳以上　1999人　(以下、全国*)
・平成21年度「高齢者の日常生活に関する意識調査」
内閣府　データ：60歳以上　3501人　(以下、全国**)
・平成22年度「高齢者の生活と意識　第7回国際比較調査」
内閣府　データ：60歳以上　1183人(以下、全国***)

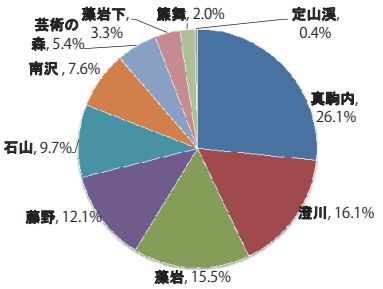
4

年齢



5

回答者の居住区

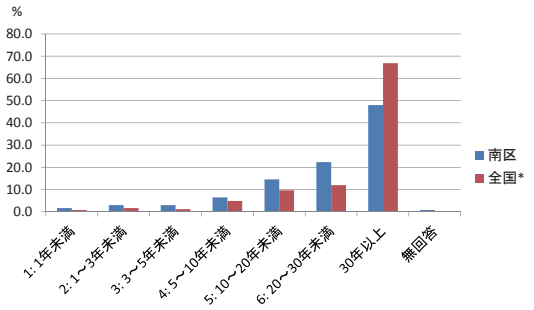


南区人口の地区比率

地区	%
澄川	20.2
藻岩下	3.7
真駒内	17.7
藻岩	18.1
南沢	7.2
石山	7.5
芸術の森	7.5
藤野	13.4
藻舞	3.6
定山渓	1.0
南区人口	142,019名

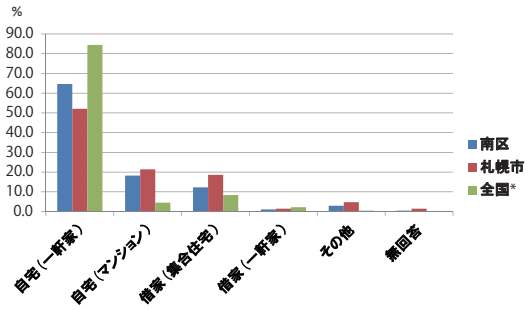
6

居住年数



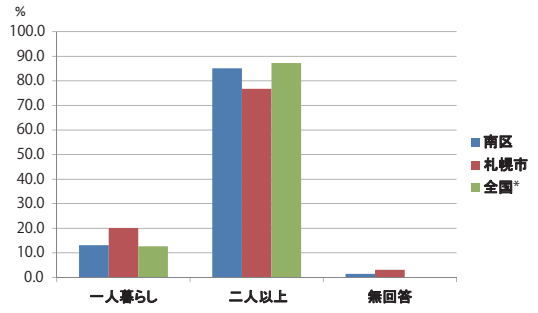
7

住宅の形態



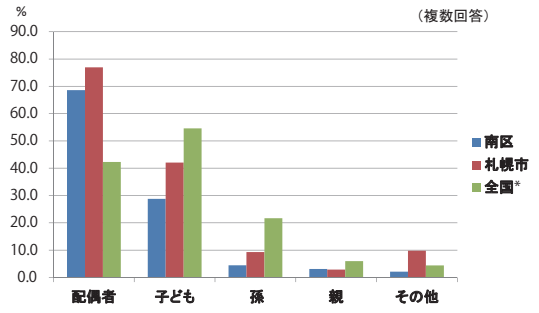
8

同居人数



9

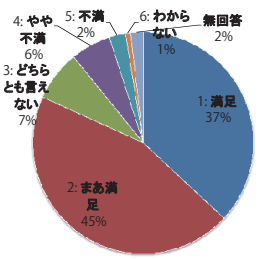
同居人



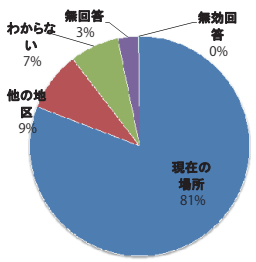
10

地域への愛着

地域満足度

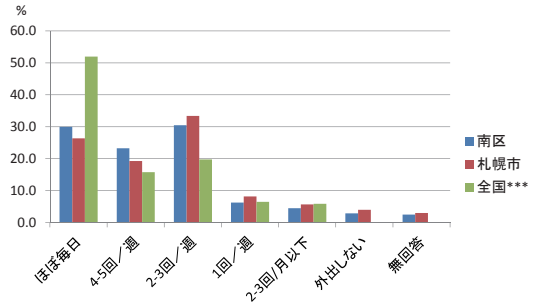


希望居住地域



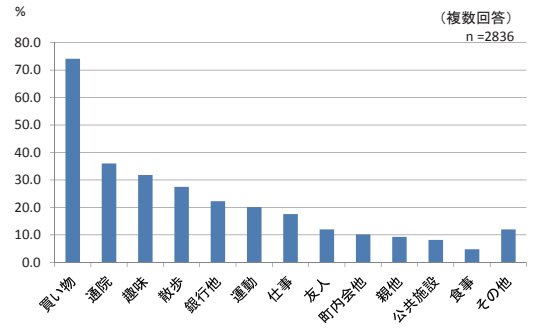
11

外出頻度



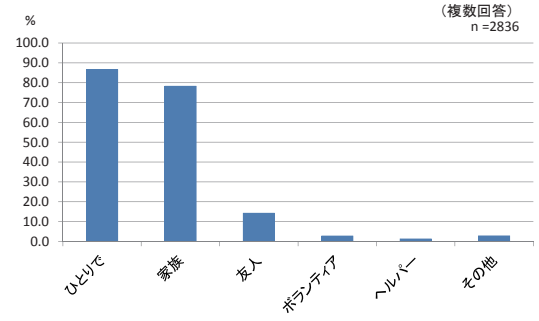
12

外出目的



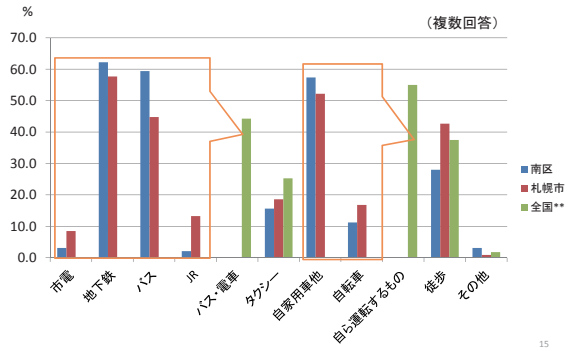
13

外出の同伴者



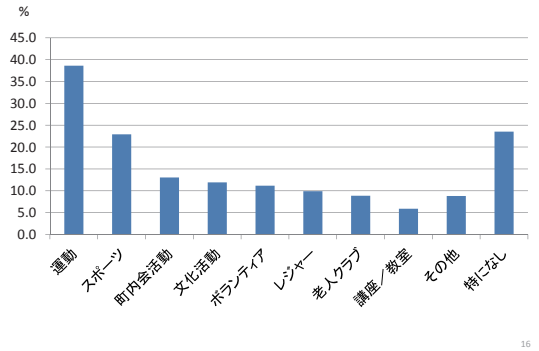
14

利用している交通機関



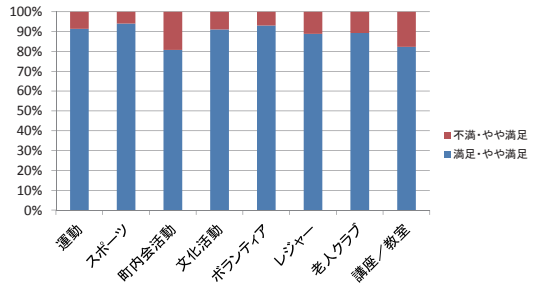
15

現在取り組んでいる活動



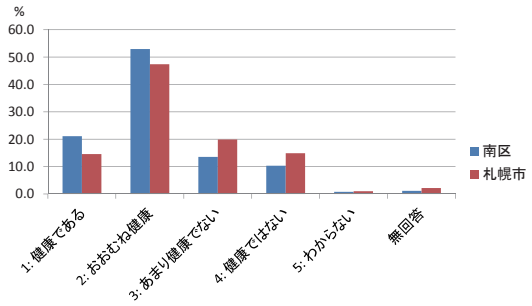
16

活動への満足度



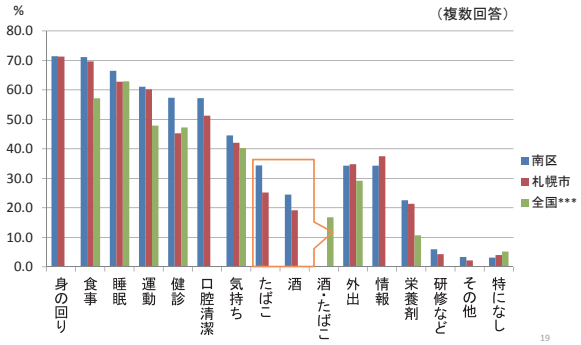
17

問11　健康状態



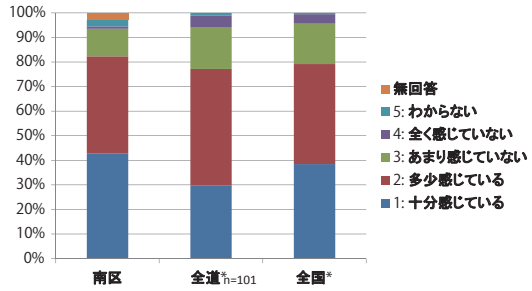
18

健康のために留意していること



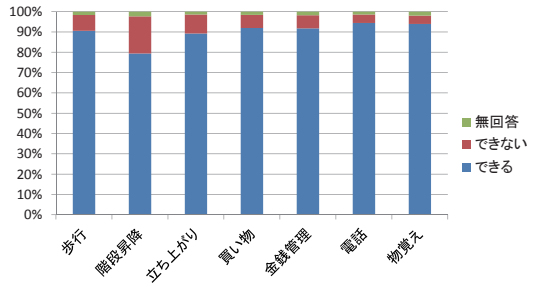
19

生きがいを感じているか



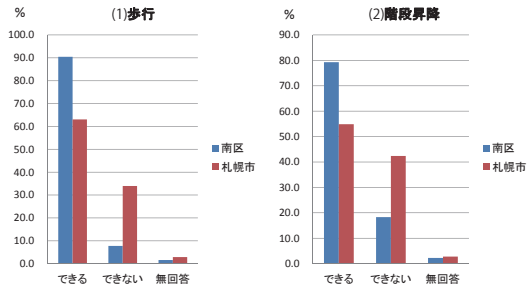
20

日常生活でできること・できないこと

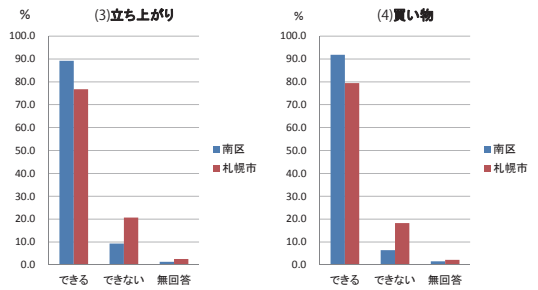


21

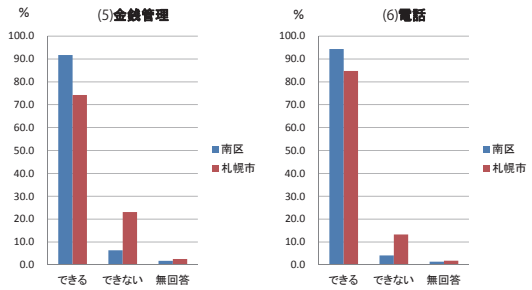
日常生活



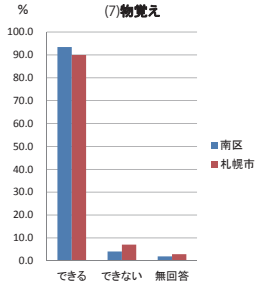
22



23



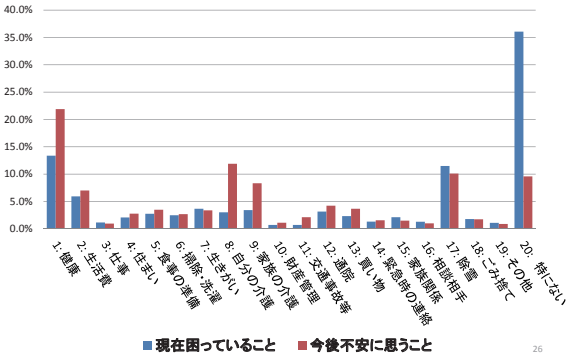
24



- 南区の皆様は札幌市全体に比べて、自立の度合いが高い

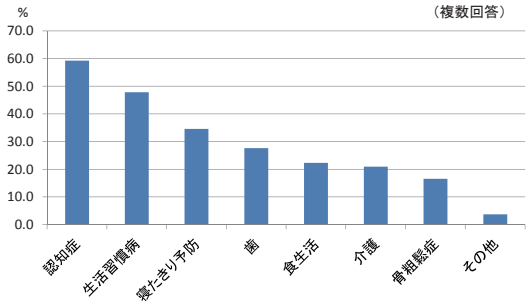
25

「現在の困りごと」と「今後の不安」



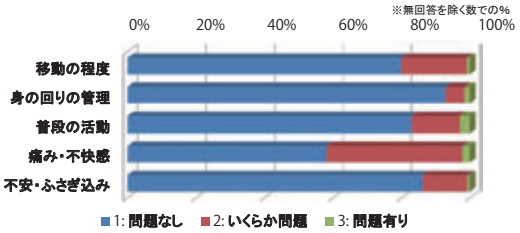
26

健康管理に関する関心



27

現在の健康状態

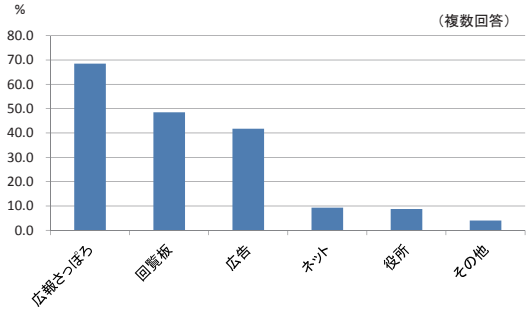


現在の健康状態を0~100で表すとどの程度か？

平均69.1±21.0

28

情報は何から得ているか



29

Q　あなたが地域のために「ちょっとだけでも役に立てるかな」と思うことは？

n=1150

記述内容	件数(%)
具体的な協力内容	
何らかのボランティア活動	657 (57.1)
人に伝える･教える	107 (9.3)
対話と交流	75 (6.5)
寄付	1 (0.1)
その他	
提案	21 (18.3)
要望	16 (1.4)
役に立てない	27 3(23.7)

ボランティアの内容

- 清掃（道路、公園など）
- 除雪（近所、重機利用）
- 話し相手(高齢者）、相談業務(悩みなど）
- 子育て支援
- 見守り・パトロール（子ども：通学など、高齢者）
- 町内会活動（活動、役員、民生委員、老人クラブなど）
- 美化活動（花壇の手入れ、ゴミステーション管理）
- 家事への協力（買い物、送迎、ゴミ出し）
- 趣味・特技を活かした協力（調理、裁縫、修繕、資料整理、囲碁将棋の相手、もの作りなど）
- 介護および施設ボランティア（老人福祉施設ほか）
- イベント手伝い
- 読み聞かせ・朗読

対話と交流

- 近隣の人との声の掛け合い
- 近所の子どもへの挨拶
- 人と仲良くする

- 行事に参加することで協力する

Q　札幌市立大学で公開講座を行うとしたら，どのようなことを行ってほしいですか.

内容	数(%)	内容	数(%)
健康に関する講座	124(25.8)	時事問題	6(1.2)
認知症予防	18(3.8)	相続・遺言・最後の準備	9(1.9)
介護予防	8(1.7)	高齢者の生きがい・ウエルネス	15(3.1)
健康体操・運動	24(5.0)	南区の街づくり・活性化	7(1.5)
スポーツ	21(4.4)	人間関係・コミュニケーション	5(1.0)
ボランティア活動	17(3.5)	趣味（手芸・絵画・合唱・書道音楽）	22(4.6)
歴史に関すること	111(23.1)	料理教室	40(8.3)
文学	21(4.4)	庭木の剪定・家庭菜園	6(1.2)
宗教・哲学	5(1.0)	英会話	11(2.3)
倫理・道徳	3(0.6)	防犯・災害予防・熊対策	7(1.5)

Q　地域活動やまちづくりを行ううえで、札幌市立大学の学生にどのようなことを期待しますか。

n=863

項目		数(%)
具体的な期待	しっかり学ぶことと卒業後の社会においての活躍	55(6.4)
	地域づくりと地域の活性化への貢献	152(17.6)
	礼儀やマナーの習得	73(8.5)
	高齢者への理解と対応の習得	45(5.2)
	学生との交流の機会	180(20.9)
	学生の地域におけるボランティア活動	88(10.2)
抽象的な期待		88(10.2)
期待すること以外の意見等		45(5.2)
市立大学について知らないので答えられない		31(3.6)
ない・わからない		106(12.3)

期待・意見の内容

抽象的な期待	学生の行動力や積極性に期待します。
	若い人の発想で、若い力で頑張って欲しい。
	有意義な取り組みだと思います。
	地域に関心をもっていただいて嬉しいです。
期待すること以外の意見等	自分のことは自分でできるよう、健康に気を付けていきたい。
	体調不良のため、参加が難しい。
	高齢のため、外出が億劫である。
	アンケートの質問や内容に関するご意見。

Q 公開講座に参加に関する条件や希望は？

カテゴリー	内容(n)	N(%)
参加費用	有料(8)無料(19)低料金・実費負担(23)その他(2)	52(14.1)
交通	送迎バス(19)巡回バス(10)交通便がいい(16)交通費の件(4)その他(9)	58(15.8)
場所	巡回(3)南区(2)土足・イス(2)その他(7)	14(3.8)
講座内容の希望	具体的内容(26)高齢者に特化した内容(11)体験型(9)レベルの高いもの(6)形態(6)その他(20)	78(21.2)
日程の希望	暖かい時期(7)月2回(2)週1回(1)週2回(1)その他(16)	27(7.3)
1講座の時間	1～1.5時間(4)2時間(10)3時間(1)その他(5)	20(5.4)
駐車場	駐車場有(27)広い駐車場(4)	31(8.4)
参加方法	自由(10)気軽(7)年齢制限なし(4)夫婦で参加(2)	23(6.3)
その他	自己の体調不良(16)、自分の仕事・ボランティア等(15)、家族の介護(6)、オープンカフェ(4)介護が必要(4)病院に来てほしい(2)ボランティアがしたい(1)その他(18)	65(17.7)

3.1 学び舎企画推進チーム　＜SCU まちの教室＞班

チームリーダー：酒井 正幸
代表幹事：斉藤 雅也
メンバー：デザイン学部：吉田 恵介・斉藤 雅也・松井 美穂・三谷 篤史
看護学部：松浦 和代・菅原 美樹・山田 典子・太田 晴美・多賀 昌江

Ⅰ　本班の平成 26 年度の事業概要・目的

本学 COC 事業における地域貢献として、札幌市南区（主に南区民センター）を会場にした「SCU まちの教室 公開講座」の企画・運営を行なう。

Ⅱ　本班の平成 26 年度の役割

事業 2 年目の平成 26 年度は、「SCU まちの教室 公開講座」の学内での公募方法を整備し、公募した後、講座を運営する。講座の終了後には、事後評価を行なう。

Ⅲ　平成 26 年度の活動

1　事業計画

平成 26 年度は、「SCU まちの教室 公開講座」を本格的に運営する初年度として、地域連携研究センターで実施中の公開講座と連携を取りながら、以下のことを行なう。学内での公募方法を整備し、応募企画について講座の開催運営を支援する。最後に、講座の終了後に事後評価を行なう。

2　主な活動

1）「SCU まちの教室 公開講座」の公募方法の検討および公募・調整
2）「SCU まちの教室 授業公開（デザイン研究科の講義科目）」の運営支援
3）「SCU まちの教室 公開講座」の年度評価

3　評価

平成 26 年度の「SCU まちの教室 公開講座」は、全 12 件（主催 5 件、共催 7 件）全 16 回で、市民参加者は延 145 名となった。また、専任教員 12 名（デザイン学部：10 名、看護学部：2 名）が講師として登壇した。これは全教員 80 名の 15％に相当する。講座の際に実施したアンケート調査の結果からは、講座参加者の 93％（＝ 54 名／アンケート回答者 58 名）が「大いに満足している」、「満足している」と回答した。

「SCU まちの教室 公開講座（授業公開）」では、大学院デザイン研究科「ソシオデザイン特論」、「建築環境学特論」の授業の一部を公開し、延べ 15 回（ソシオ：8 回、建築環境：7 回）の運営支援を行なった。1 回あたりの市民の平均受講者数はソシオ：26 名（前期：夜開催）、建築環境：6 名 (後期：朝開催) で、アンケート回答者の 97％（＝ 30 名／ 32 名）が「大いに満足している」、「満足している」と回答した。以上より、本事業計画は概ね順調に進んでいる。なお、公開講座の内容については、p. 31 の表を参照のこと。

大学院デザイン研究科「ソシオデザイン特論」の授業公開

講義を行なう蓮見 孝 学長

表：平成 26 年度公開講座一覧

2014年度　　SCUまちの教室公開講座

	企画者	講座名	開催日	参加数	時間	会場
1	准教授　斉藤　雅也	国道453号線をグリーンカーテンでつなげよう ウェルカムロードプロジェクト　2014キックオフ勉強会	6月2日（月）	25名	12:30～14:00	芸術の森地区 まちづくりセンター
	備考	「札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート」による活動の一環 芸術の森地区まちづくりセンター、札幌市環境局みどりの推進課と**共催** 「札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート」による活動の一環 芸術の森地区まちづくりセンターと共催・地域住民対象 1）札幌市立大学デザイン学部　斉藤雅也准教授 　平成25年度の芸術の森地区での取り組みについて、 グリーンカーテンによる涼房効果 2）札幌市環境局みどりの推進課 　グリーンカーテンの土・肥料・植え方・育て方の実践講座				
2	講師　三谷　篤史	親子メカトロ教室「走れ！ロボットカー」	6月21日（土）	30組	13:00～16:00	札幌市青少年科学館 特別展示室
	備考	主催：日本機械学会 小学4年生～中学生および保護者（中学生は単独参加可）30組募集 4グループの1つを担当				
3	講師　三谷　篤史	メカトロ講座・ロボットカーを走らせよう	8月24日（日）	10組 小学13名 大人7名	12:30～14:00	保養センター駒岡
	備考	2014こまおか秋まつりの参加者・親子（小学生）を対象　10組当日会場で募集				
4	教授　矢部　和夫	札幌芸術の森：紅葉の中の彫刻	10月18日（土）	16名	10:30～14:00	札幌芸術の森
	備考	札幌芸術の森と連携：　講師として札幌芸術の森美術館　副館長　吉崎元章 無料送迎バス（真駒内駅前⇔芸術の森センター） 一般市民対象　ACU受付　（23名申込・6名キャンセル・1名欠席）				
5	教授　松浦　和代 准教授　大野　夏代	札幌市立大学看護学部のモンゴル支援	10月29日（水）	29名	14:00～15:30	南区民センター視聴覚室
	備考	一般市民対象　ACU受付				
6	講師　松井　美穂	アメリカ小説の女性たち	（全5回シリーズ）			
	備考	一般市民対象 ACU受付				
		アメリカ文学と女性ーイントロダクション	11月8日（土）	4名	13:30～15:00	南区民センター第3会議室
		ケイト・ショパン『目覚め』（1899）	11月29日（土）	2名	13:30～15:00	南区民センター第3会議室
		ゾラ・ニール・ハーストン『彼らの目は神を見ていた』（1937）	12月20日（土）	4名	13:30～15:00	南区民センター第3会議室
		カーソン・マッカラーズ 『悲しき酒場の唄』（1943）	1月10日（土）	6名	13:30～15:00	南区民センター第3会議室
		シルヴィア・プラス 『ベル・ジャー』（1963）	1月31日（土）	4名	13:30～15:00	南区民センター第3会議室
7	講師　杉本　達應 特任助教　籔谷　祐介	真駒内のまちづくるを考える －ヨーロッパの先進事例を通して －	2月13日（金）	35名	18:30～20:00	南区民センター視聴覚室
	備考	一般市民対象　ACU受付				

2014年度　　SCUまちの教室 授業公開

	授業者	講座名	開催日	参加数	時間	会場
1	教授　蓮見　孝	ソシオデザイン特論	4月14日（月）	37名	19:00～20:30	南区民センター第1・2会議室
	備考	前期大学院デザイン研究科授業公開 8回公開／15回（午後7時～8時30分）	4月21日（月）	31名	19:00～20:30	南区民センター第1・2会議室
			4月28日（月）	21名	19:00～20:30	南区民センター第1・2会議室
			6月2日（月）	23名	19:00～20:30	ユニバーサルカフェminna
	大学院 8名 一般・区役所職員 平均約26名		6月9日（月）	20名	19:00～20:30	ユニバーサルカフェminna
			6月16日（月）	24名	19:00～20:30	南区民センター視聴覚室AB
			6月23日（月）	28名	19:00～20:30	南区民センター視聴覚室AB
			6月30日（月）	24名	19:00～20:30	南区民センター視聴覚室AB
2	准教授　斉藤　雅也	建築環境学特論	11月11日（火）	3名	9:00～10:30	ユニバーサルカフェminna
	備考	後期大学院デザイン研究科授業公開 7回公開／15回（午前9時～午前10時30分）	11月14日（金）	5名	9:00～10:30	ユニバーサルカフェminna
			11月21日（金）	3名	9:00～10:30	ユニバーサルカフェminna
			11月25日（火）	5名	9:00～10:30	ユニバーサルカフェminna
	大学院 3名 一般 平均約6名		12月2日（火）	7名	9:00～10:30	ユニバーサルカフェminna
			12月9日（火）	7名	9:00～10:30	ユニバーサルカフェminna
			1月20日（火）	11名	9:00～10:30	ユニバーサルカフェminna

Ⅳ　今後の課題

次年度より「真駒内 COC キャンパス」が本格稼働する。「SCU まちの教室 公開講座」の公募の際に、「真駒内 COC キャンパス」の開館情報・レイアウト等を入れて周知する必要がある。

今後、より多くの市民に公開講座に参加してもらうために広報企画推進チームとの連携をさらに強め、事前の広報に力を入れる必要がある。たとえば、大学ウェブサイトのトップページで公開講座の案内が判るようにするなどの配慮が必要である。また、札幌市や南区の広報誌 (広報さっぽろ) などで専用コーナーを作成して頂くなどの働きかけをする。

まちの教室 公開講座　親子メカトロ教室「走れ！ロボットカー」
（三谷 篤史　デザイン学部・講師）

ロボットカーを試走させる地域の子どもたち

大学院デザイン研究科「建築環境学特論」の授業公開
（斉藤 雅也　デザイン学部・准教授）

3.2 学び舎企画推進チーム　＜SCU まちの談話室＞班

チームリーダー：酒井 正幸
代表幹事：斉藤 雅也
幹事：清水 光子
メンバー：デザイン学部：羽深 久夫・武田 亘明・片山 めぐみ・小宮 加容子・福田 大年
看護学部：小田 和美・大野 夏代・原井 美佳・藤井 瑞恵・田仲 里江

Ⅰ　本班の平成 26 年度の事業概要・目的

地域の人々のウェルネス (健康で、楽しく、生きがいがもてる状態) を創出する場の設定や、具体的な方法を地域住民や企業と共に企画・立案する。

Ⅱ　本班の平成 26 年度の役割

・コミュニティカフェ・市民交流グループ／Ｄ片山めぐみ・武田亘明、Ｎ／清水光子・大野夏代・原井美佳・田仲里江
・地域防災グループ／Ｄ小宮加容子・羽深久夫・福田大年、Ｎ／小田和美・藤井瑞恵

Ⅲ　平成 26 年度の活動

1　事業計画

1) コミュニティカフェ・市民交流に向けての準備を行う。
2) 地域防災の実務家打ち合わせ、防災ゲームの体験を行う。

2　主な活動

1) コミュニティカフェ・市民交流グループ

◆座談会「コミュニティカフェを考えよう！！」を開催

コミュニティカフェオープンにむけたワークショップを 4 回開催した。

第 1 回　8 月 25 日（月）
市民 34 名、教職員 10 名参加
ミニ講話：コミュニティカフェとは何か
ワークショップ：コミュニティカフェのイメージ、こんなカフェにしたい。

第 2 回　10 月 18 日（土）
市民 30 名、教職員 8 名参加
ワークショップ：気軽に立ち寄れ相談できる友人作りの場で何をしようか (1)。

第 3 回　12 月 20 日（土）
市民 32 名、教職員 11 名参加
視察：旧真駒内緑小学校のカフェ設置場所を視察
ワークショップ：気軽に立ち寄れ相談できる友人作りの場で何をしようか (2)。

第 4 回　平成 27 年 2 月 21 日（土）
市民 24 名、教職員 11 名参加
ワークショップ：3 つのコンセプトに基づき、27 年度のお試しシェフ及びイベントの企画案を作成した。
3 回の座談会で確認できた本コミュニティカフェのコンセプトは以下の通りである。
①地域住民が気軽に訪れることができる安全な居場所である。
②イベントなどに参加することで、地域交流や友達づくりができる。
③美味しいコーヒー、甘味、季節にあった南区らしいランチが提供される。

◆コミュニティカフェ組織との連絡調整

札幌市子ども未来局とコミュニティカフェの目的、運営について打ち合わせ、アドバイスを行った。事業者募集の選定委員の役割を担った。また、カフェの施設設備については詳細な打ち合わせを数回重ね、平成27年4月開店に向けて準備を行った。

◆コミュニティカフェプレオープン（予定）

平成27年3月21日のコミュニティカフェプレオープンには、平成26年度のワークショップの成果として、平成27年度のコミュニティカフェ「お試しシェフとイベント」の企画案をパネル展示する。訪れた市民に、のみ物とクッキーを提供すると共に、コミュニティカフェに関する聞き取りアンケートを座談会メンバーと実施する。また、カフェに設置するテーブルを市民と共に製作する。

◆図書室・談話室での市民交流 (予定)

まちの学校プレオープンには、子どもから高齢者まで幅広い方々を対象にし、遊びのワークショップを開催する。物の表面に紙を置き、色鉛筆やクレヨンでフロッタージュ（こすり出し）をすることで、手触りを模様に変えて楽しめるもので、参加者同士の交流が図られる。また、5月のまちの学校オープン後に、地域の住民がともに「なんとなく」、時には「目的」をもって楽しく過ごす場の設定やイベントを検討中である。

2）地域防災グループ

◆地域防災に関する情報収集と取り組み課題の決定

地域力の向上をめざして、多世代が交流する場づくり、しくみづくりを行うために、企業、行政との会議を開催した。

(1) 第2回 地域防災会議開催　5月23日（金）

行政・企業9人、教職員6人参加

行政、企業、大学が参加し、「26年度の実施計画」について、対象、災害前の取り組み、防災教育、学生・南区民の参加方法などの意見交換を行った。

(2) 地域防災に関する聞き取り調査の実施

7月～9月　教員7人

南区の芸術の森地区の公的機関や小・中学校等6施設に、地域防災に関する課題についての聞きとり調査と企業の協力についてヒヤリングを実施した。様々な課題の中から「みんなが参加したくなる防災訓練」を地域の住民とともに取り組んでいくことを決定した。

(3) 地域組織の情報収集　27年2月～3月（予定）

次年度からのワークショップの準備として、芸術の森まちづくりセンター、常盤中学校に出向き、町内会や地域組織の情報収集を行う。

◆南区の防災訓練に参加　教員4人

8月27日（火）南区総務課企画課主催の定山渓地区防災訓練に参加し、消火訓練、救急処置訓練、避難所運営訓練などの体験をした。

◆地域防災の展示 (予定)

まちの学校プレオープニングイベントにおいて、地域防災に関するハザードマップや防災グッズを展示し、訪れた住民から防災セットのアイディアや地域防災に関する意見等を聴取する。

3　評価

平成26年度の「SCUまちの談話室」の活動は、次年度の事業展開に向けてのワークショップや調査が主となり、目標への達成度は十分とは言えなかった。

コミュニティカフェ・市民交流グループで実施した、座談会「コミュニティカフェを考えよう！！」には、興味のある市民、カフェ経験者、学生、行政

職員、大学関係者など幅広い人材が集まり、意見交換を行うことができたことは成果である。平成27年5月以降のお試しシェフは、市民によって企画・運営される予定である。市民交流の企画・運営は検討不足であるため、具体的な内容は今後検討する。

地域防災グループは、地域の防災ニーズを把握するために時間を要したが、テーマを決定し、地域の人々が主体的に本プロジェクトに参加し、地域防災を検討するための準備を整えることができた。実務家打ち合わせ、防災ゲームの体験は次年度に持ち越しとなった。

Ⅳ　今後の課題

地域の人々のウェルネスを創出する場は、地域住民や企業・行政などと共に企画・実施・評価をすることが重要である。「コミュニティカフェ」「市民交流」「地域防災」の企画・実施は、地域住民や関係機関が協働して進めるため、一定程度の時間を要する。それぞれに、「お試し」を数回重ね、継続実施へとつなげていく。どの事業も実施しながらニーズやアイディアが出てくることが考えられ、住民や関係機関の声を最大限に取り入れて、市民の居場所や交流の場が有効に活用できるように検討していく。「地域防災」は、芸術の森地区で取り組むが、他地域のモデルとなる仕組みをつくることが課題である。

また、本事業に大学の知財の投入や、学生の人材育成をどのように組み込むかは、他のチーム・班との連携や先進事例を参考に検討していく。

3.3 学び舎企画推進チーム　＜SCU まちの先生＞班

チームリーダー：酒井 正幸
代表幹事：斉藤 雅也
幹事：杉本 達應
メンバー：デザイン学部：石崎 友紀・上田 裕文・金子 晋也
看護学部：坂倉 恵美子・菊地 ひろみ・櫻井 繭子・坂東 奈穂美・横川 亜希子

Ⅰ　本班の平成 26 年度の事業概要・目的

平成 27 年度から開講する「まちの先生」の準備期間と位置づけ、講師となる住民の登録を始め、企画の一部を試験運用する。

Ⅱ　本班の平成 26 年度の役割

運営会議主担当／
　D：杉本達應、N：菊地ひろみ、D：上田裕文、
　D：金子晋也
運営会議ファシリテーター／
　全メンバー
スペシャルイベント主担当／
　D：石崎友紀

Ⅲ　平成 26 年度の活動

1　事業計画

平成 27 年度より実施する「まちの学校」の開講に向けて、講師となる住民の登録を始める。

2　主な活動

班会議を 4 月、5 月、6 月、7 月、9 月、10 月、11 月、12 月、1 月、3 月に 10 回実施し、以下の項目を実施した。

◆平成 27 年度から開講予定の「まちの先生」の企画準備

「まちの先生」の企画運営を考えるレクチャーやグループワークを行う住民参加の運営会議を 4 回開催した。

・「まちの先生大集合！」（7 月 2 日、会場：札幌市南区民センター）第 1 部講師：西上ありさ氏（studio-L・コミュニティデザイナー）参加者：49 名
・「まちの先生運営会議」（9 月 24 日・11 月 25 日・2 月 10 日、会場：同上）参加者：18 名（9 月）、18 名（11 月）、21 名（2 月）

◆平成 27 年度から開講予定の「まちの先生」のプレ開講

「まちの先生」開講前のプレイベントとして、「さっぽろデザインウィーク 2014」においてスペシャルイベントを開催した。また、「まちの学校プレオープニングイベント」においてプレ開講を実施する予定である。

・「SCU まちの先生 in チ・カ・ホ（10 月 25 日、会場：札幌駅前通地下歩行空間　北 2 条交差点広場（東））講師：臼井寛氏（札幌 LRT の会・副会長）参加者：約 100 名
・「まちの先生」プレ開講（3 月 21 日、会場：COC キャンパス「まちの学校」）

◆全学 FD 研修会の企画開催

ファシリテーションの基本的な知識や技能を習得し、地域住民ファシリテーターの養成に関する議論を行うことを目的に、全学 FD 研修会を企画開催した。

・テーマ「教員および地域住民ファシリテーター養成に向けて」(7 月 2 日、会場:芸術の森キャンパス)
講師：西上ありさ氏（studio-L・コミュニティデザイナー）参加者：29 名

3　評価

事業計画の項目を実施し、本年度の目的は達成したといえる。「まちの先生」運営に向けた住民参加の運営会議を計 4 回開催し、地域住民主体のグループによって開講準備がすすめられている。具体的な講座運営体制の構築については次年度へ引き継ぐこととした。

Ⅳ　今後の課題

平成 27 年度に開設する COC キャンパスの施設運営に対応した「まちの先生」の企画立案と実施に向けた具体的準備を行なう。また、講師人材の発掘、登録や、講座の運営方法について引き続き検討、整備していく。

4.1 広報企画推進チーム　＜COC 広報＞班

チームリーダー：中原 宏
代表幹事：柿山 浩一郎
メンバー：デザイン学部：吉田 和夫・大渕 一博・須之内 元洋
看護学部：宮﨑 みち子・三上 智子・小田嶋 裕輝

Ⅰ　本班の平成 26 年度の事業概要・目的

本班は､｢教育改革推進チーム｣｢研究企画推進チーム｣｢学び舎企画推進チーム｣が推進する事業を、地域・社会へ繋げる支援を目的とした班である。主に、他チームの活動の記録、成果の社会への発信を目的とする。

Ⅱ　本班の平成 26 年度の役割

平成 25 年度に、本事業の記録・広報のあり方を検討し、具体的な運用の仕組みを構築した。この仕組みに基づき、本事業の活動の実際の記録、ホームページや印刷物を用いた広報（情報発信）を行うことが平成 26 年度の本班の役割である。

Ⅲ　平成 26 年度の活動

1　事業計画

本年度、本班に与えられた役割をもとに、具体的に以下の項目について活動を行うこととした。

（1）学内外へ向けた COC 事業の周知コンテンツの作成
（2）広報における仕組みの検討
（3）広報 WebSite の運用・改善
（4）映像 / 静止画による記録 / 活かし方の検討
（5）緑小学校のサイン計画の検討・仕様版の設置
（6）平成 26 年度報告書の作成

2　主な活動

（1）学内外へ向けた COC 事業の周知コンテンツの作成

1）COC 事業概要伝達プレゼンテーションの作成

平成 26 年 4 月は、本事業スタートから半年が経過したが、学外はもちろんのこと、学生を含めた学内スタッフに関しても本事業の周知が不十分な状況であった。そこで､本事業内容を「札幌市立大学の概要」｢COC 事業とは？｣｢本学の COC 事業概要｣｢COC カリキュラムの特徴｣からなる事業説明プレゼンテーション用スライド（全 46 ページ）を作成した（次ページ参照）。

2）まちの学校パンフレットの作成

本事業は、廃校となった小学校の再活用を核とする。平成 24 年に廃校した「真駒内緑小学校」に本学 COC キャンパスを平成 27 年 5 月より設置し、地域の皆様、札幌市とともに活動する計画であった。本活動の内容を、地域の皆様とともに検討する場を平成 26 年度に設けるにあたって、基本的な考え方を示すパンフレットを作成した。（下図参照）

文部科学省：平成 25 年度採択：「地（知）の拠点整備事業」

ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業

地（知）の拠点

札幌市立大学

www.scu.ac.jp

札幌市立大学の概要

---

770 国立：86 公立：83 私立：601

全国には、770校の大学がありますが

平成25年5月1日現在（文部科学省）

少子高齢化や

人間重視の精神に基づくデザインと看護の連携で地域社会に貢献する大学

札幌市立大学

高度職業人の育成

幅広いデザイン能力を持った地域に貢献できる職業人

医療の高度化に対応し他職種と連携し、地域に貢献できる職業人

地域産業や芸術・文化の振興

Design デザイン学部 × Nursing 看護学部

健康・ケアへの参与 地域市民の

「デザイン学」と「看護学」の連携で

人間重視の精神に基づくデザインと看護の連携で地域社会に貢献する大学

高度職業人の育成

地域産業や芸術・文化の振興

Design デザイン学部 × Nursing 看護学部

地域市民の健康・ケアへの参与

地域社会に貢献する人材育成です

札幌市立大学のこれまでの地域との関わり例

これまでの実績からも明確なように

どのような大学になる？＝機能別分化

❶ 世界レベルの教育・研究拠点

❷ 国内トップレベルの教育・研究拠点

❸ 地域の中核的拠点

文部科学省　各大学

札幌市立大学は「地域の拠点」をめざします

グローバル化にともない

どのような大学になる？＝機能別分化

❶ 世界レベルの教育・研究拠点

❷ 国内トップレベルの教育・研究拠点

❸ 地域の中核的拠点

文部科学省　各大学

特長ある大学としての存続が問われています

人間重視の精神に基づくデザインと看護の連携で地域社会に貢献する大学

札幌市立大学

高度職業人の育成

幅広いデザイン能力を持った地域に貢献できる職業人

医療の高度化に対応し他職種と連携し、地域に貢献できる職業人

地域産業や芸術・文化の振興

Design デザイン学部 × Nursing 看護学部

健康・ケアへの参与 地域市民の

そもそも本学の教育目標は

人間重視の精神に基づくデザインと看護の連携で地域社会に貢献する大学

高度職業人の育成

地域産業や芸術・文化の振興

Design デザイン学部 × Nursing 看護学部

健康・ケアへの参与 地域市民の

人間重視の精神に基づき

COC事業とは？

文部科学省

「地（知）の拠点整備事業」（Center of Community）

自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学の支援

地域コミュニティの中核的存在（地域再生・活性化の拠点）としての大学の機能強化

H25年３月

文部科学省は

文部科学省ウェブサイト（2013/9/13access）

文部科学省

「地（知）の拠点整備事業」（Center of Community）

自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学の支援

地域コミュニティの中核的存在（地域再生・活性化の拠点）としての大学の機能強化

H25年３月

全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学

文部科学省ウェブサイト（2013/9/13access）

文部科学省

「地（知）の拠点整備事業」（Center of Community）

自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学の支援

地域コミュニティの中核的存在（地域再生・活性化の拠点）としての大学の機能強化

H25年３月

地域コミュニティの中核的存在としての機能強化

文部科学省ウェブサイト（2013/9/13access）

文部科学省

「地（知）の拠点整備事業」（Center of Community）

自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学の支援

地域コミュニティの中核的存在（地域再生・活性化の拠点）としての大学の機能強化

H25年３月

を目的とした補助事業をH25年に募集しました

文部科学省ウェブサイト（2013/9/13access）

全国 770 国立：86 公立：83 私立：601

申請 319 国立：51 公立：58 私立：180

短大：40、高専：13

全国770大学の内、319の申請がありました

採択 52 国立：22 公立：14 私立：15

短大：3、高専：2

倍率 6.1倍

北海道では小樽商科大学と札幌市立大学の２校のみ

H25年度に採択されたのは52の事業で

採択 52 国立：22 公立：14 私立：15

短大：3、高専：2

倍率 6.1倍

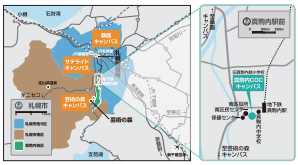
北海道では小樽商科大学と札幌市立大学の２校のみ

倍率は6.1倍、北海道では小樽商大と本学が採択されました

ウェルネス×協奏型地域社会とは？

多世代・多セクターの人々が、ウェルネスを実現できる“コミュニティづくり”、“まちづくり”に、主体的に参画しあう社会

ウェルネス×協奏型地域社会とは？



包括地域として「札幌市全域」、集中地域として「札幌市南区」を設定し活動します

平成24年３月に閉校した真駒内緑小学校ですが

平成24年3月に閉校

その活用のあり方が検討されています

平成25年3月８日「まこ×まち2014」

本学のCOC事業概要

ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業

まず、事業名に注目してみましょう

研究　教育

ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業

社会貢献

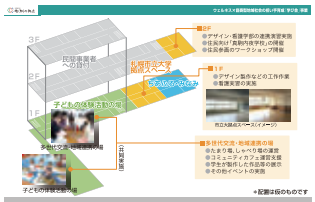
各々、研究、教育、社会貢献が含まれています

Wellness

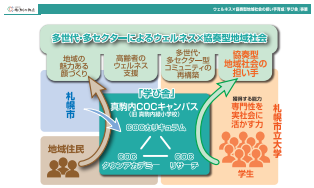
ウェルネスとは？

生涯にわたり、
「健康で」「楽しく」「生き甲斐がもてる」状態

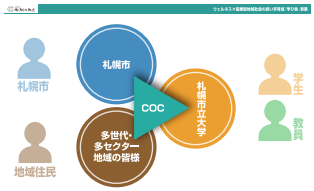
ウェルネスとは？



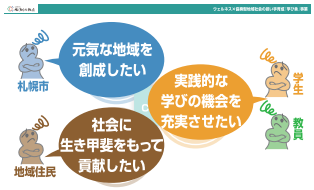
この旧小学校に真駒内COCキャンパスを開設予定です
H27年度開設予定



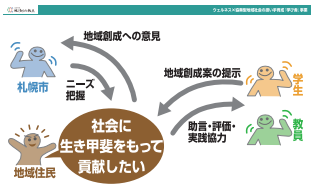
このCOCキャンパスに、札幌市、地域住民の皆様、本学学生が集います



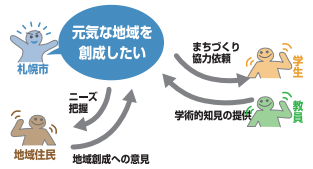
この3者は、



補完できる課題をもっていると考えられます



地域住民のメリット



札幌市のメリット

札幌市立大学のメリット

札幌市・南区のご協力　本学教職員・学生の力

南区地域の方々のご参画

この3つのメリットの協奏が本事業の核となります

これは社会基礎力を身につけることとイコールであり

皆さんの専門性を、効果的に実社会に活かすことに繋がります

おわりに

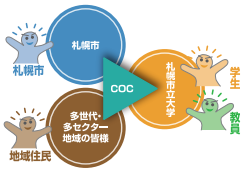
本事業が生み出す社会変革のイメージ例

本事業の実施を通してウェルネス×協奏型地域社会が構築されます

COCカリキュラムの特長

4年次　地域セミナー
3年次　学部連携演習
2年次　学部連携基礎論
1年次　スタートアップ演習
新設計画中
COCカリキュラム

スタートアップ演習、学部連携演習は本学の特長的な科目ですが



札幌市をフィールドに地域住民と関わる

実践的な演習授業となります

共に、学び舎の運営に参画してください

札幌市立大学

http://coc.scu.ac.jp/

3）各種広告掲載画像の作成

札幌市立大学の対外的な広報の一貫として、例年行ってきた「Sapporo Design Week 2014」「映画祭フェスティバル」の冊子への広告紙面を、COC 事業に関連する広報紙面として作成した。（下図参照）

4）イベント時の横断幕の作成

各種イベントへの本学 COC 事業としてのブース出展も効果的なコミュニケーション手段と位置づけた。その際に必要となる横断幕の作成を行った。（下図参照）

COC 事業 イベント時横断幕検討（3000mm ×700mm）

5）スタートアップ演習の説明パネルの作成

１年次のスタートアップ演習は、デザインと看護の連携と大学導入教育がポイントとなる演習である。これに加え、３年次の学部連携演習を見据えて、「地域に目を向ける」ことを目的とした COC 事業に関連する演習科目である。平成 26 年度のスタートアップ演習の成果を展示するパネルの作成を行った。（右上図参照）

6）学部連携演習の説明パネルの作成

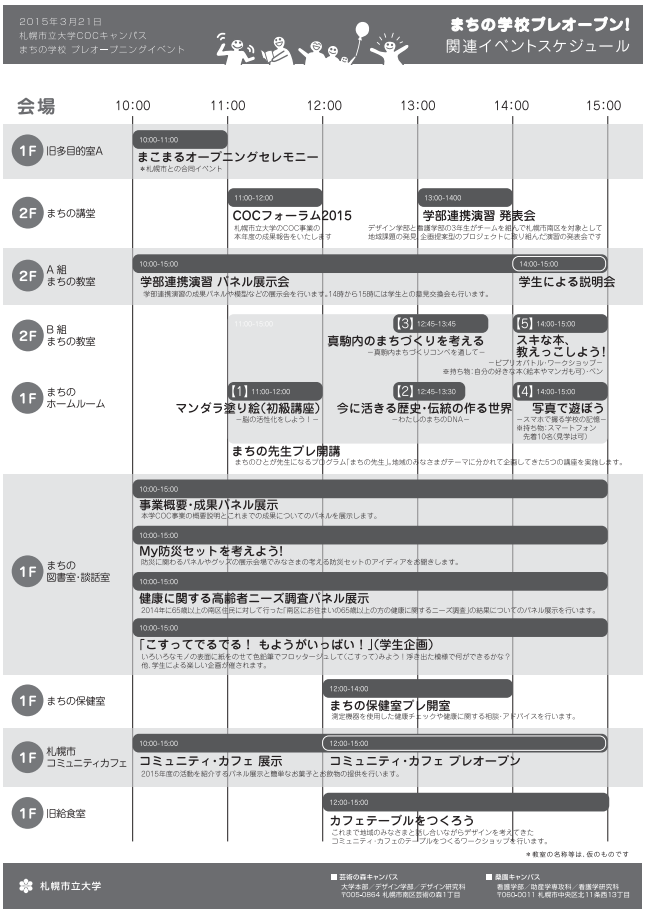
１年次のスタートアップ演習と同様、３年次の学部連携演習は地域の皆様に本学の教育に参画して頂く（本学学生が地域をフィールドに学ぶ）ことで、地域と本学が接続する COC 事業の中核的位置づけの演習科目である。平成 26 年度の学部連携演習の成果を展示するパネルの作成を行った。（下図参照）

7）プレ開校イベントのご案内リーフレットの作成

平成 26 年度の総括にあたる、本事業の公開フォーラムを「まちの学校 プレオープン!」として旧緑小学校で実施するにあたり、参加者への配布を目的としたリーフレットを作成した。（次ページ左段参照）

8）高知大学主催の全国シンポジウムへのポスターセッション用パネルの作成

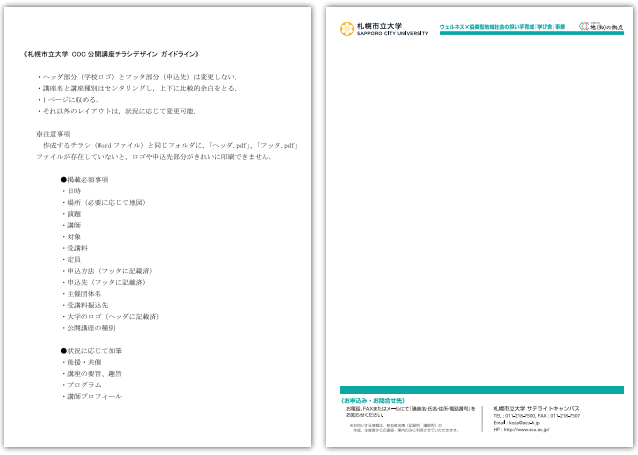
国立大学法人高知大学が主催する、全国の COC 事業に関するシンポジウム「地（知）の拠点整備事業シンポジウム～ COC 全国ネットワーク化事業～」のポスターセッションへの参加に伴い、展示パネル（A0 サイズ縦）を作成した。（次ページ右段参照）



（2）広報における仕組みの検討

1）COC 公開講座のチラシフォーマットの作成

平成 25 年度は「学び舎企画推進チーム」が企画した 2 件の市民公開講座に関して、告知用のチラシを広報班にて制作した。しかし、この種のイベントは増えることが予想されたため、統一したフォーマットを作成し（下図参照）、各担当のチームまたは班にて、チラシを作成する仕組みを構築した。


《札幌市立大学 COC 公開講座チラシデザイン ガイドライン》

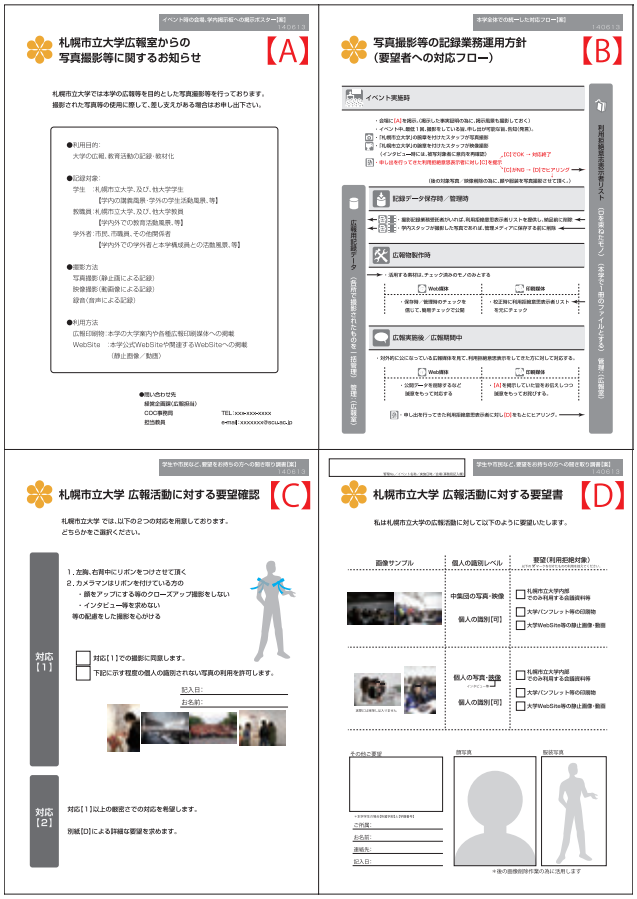
・ヘッダ部分（学校ロゴ）とフッタ部分（申込先）は変更しない。
・講座名と講座種別はセンタリングし、上下に比較的余白をとる。
・1ページに収める。
・それ以外のレイアウトは、状況に応じて変更可能。

●掲載必須事項
・日時
・場所（必要に応じて地図）
・演題
・講師
・対象
・受講料
・定員
・申込方法（フッタに記載済）
・申込先（フッタに記載済）
・主催団体名
・受講料振込先
・大学のロゴ（ヘッダに記載済）
・公開講座の種別

●状況に応じて加筆
・後援・共催
・講座の要旨、趣旨
・プログラム
・講師プロフィール

2）撮影された映像や写真の肖像権への対応・フォロー検討

本事業では、地域の皆様をはじめ、学外者と本学学生・教職員の交流の機会が、その活動の核となる。この交流活動は教材作成の観点、事業の実施報告の観点から記録を行うことになるが、被写体となる方々の肖像権に関する問題が想定された。これは、本学全体の広報に関するポリシーに影響することから、本チームで原案作成、大学の広報室での協議・検討を経て、全学での共通ポリシーとして確定するプロセスをたどった。広報に関するポリシー確定後は、本チームもこれに従っての記録活動を行うこととした。（下図参照）



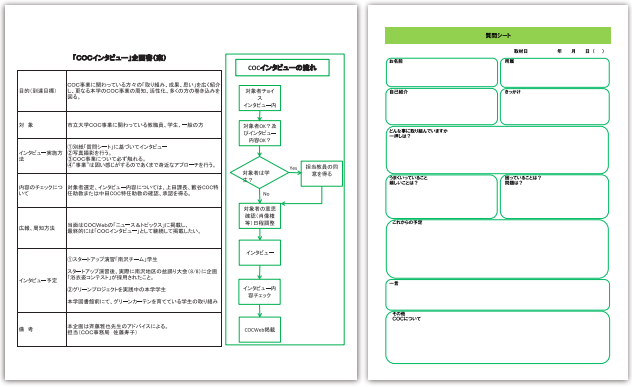
3）COC インタビューの仕組みの検討

本事業の根幹をなすのは「人」であり、人々の思いが醸成されて事業の成功に繋がるとの観点から、インタビュー形式での取材を通して、各活動の広報の素材とする仕組みを検討した。（右段上参照）

（3）広報 WebSite の運用・改善

1）Web の更新・改善に関して

平成 25 年度の成果として、本事業の WebSite を作成した。平成 26 年度になり、具体的な成果等が生まれてくる中で、以下のような更新・改善を実施

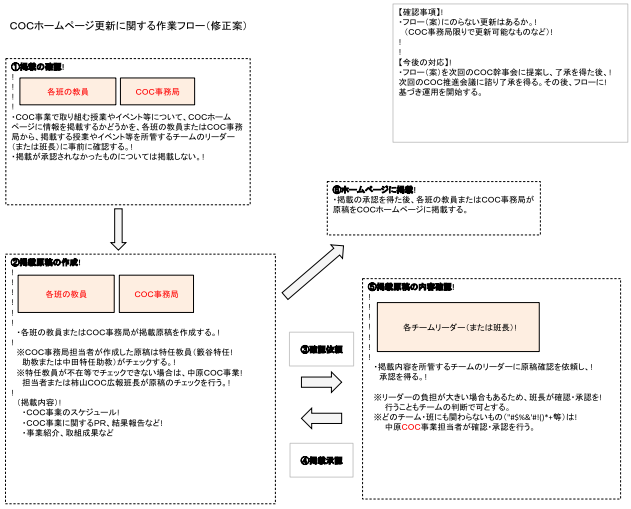


した。《1》本学 HP のトップページのバナーをグラフィカルなものに変更（下図参照）／

《2》学長・COC 部門長挨拶ページの追加／《3》前述の COC 事業概要伝達プレゼンテーションの作成の動画版を公開する YouTube の専用チャンネルの準備（試用版の非公開アップ）／《4》平成 25 年度事業報告書の公開／《5》ニュース記事の分かり易さ向上を目的とした、「教育、研究、社会貢献、SCUCOC」の 4 カテゴリ化への対応／《6》推進体制図の更新に加え、本学の全教員が本学 COC 事業に関わっていることの明示を目的とした、全教員の顔写真の公開（下図参照）

2）Web の情報発信の承認プロセスに関して

平成 25 年度に構築した本 WebSite は、各チーム、各班の権限にて情報発信のできる仕組みとした。しかし実際の運用では、担当者の ICT（Information & Communication Technology ）スキルの問題もあり事務局が情報発信を代行することになったため、Web の情報発信の承認プロセスを検討した。（下図参照）



（4）映像 / 静止画による記録 / 活用法の検討

1）映像 / 静止画による記録の実施

本事業では平成 25 年度に、教育（カリキュラム）改革を重要な目的の一つとしていた。そこで、教育を目的とした教材作成のための記録、加えて、本事業の実施報告を目的とした記録の観点から、映像 / 静止画による記録を行う方針とした。以上の方針に基づき別表のように、映像 / 静止画による記録を実施した。（次ページ表参照）

2）教育教材としてのまとめかたの検討

映像 / 静止画による記録素材は、膨大な量となることから、実際に本記録素材を活用する場面を検討し、具体的には DVD としてまとめることを決定し、その作成を外部業者に依頼することとした。

（5）緑小学校のサイン計画の検討・仕様版の設置

平成 27 年 5 月より真駒内緑小学校に本学 COC キャンパスを開校予定で本事業は進んでいるが、平成 27 年 3 月 21 日に、札幌市の協働によるプレ開校イベントを実施することとなった。これに合わせて、同キャンパス内の教室名表示・誘導看板・他の施設との統一感等を加味した、サイン計画を検討し、試験的なサイン設置をすることとした。

（6）平成 26 年度報告書の作成

1）平成 26 年度成果報告書の寄稿依頼

平成 25 年度同様、本事業の成果報告書をまとめることとした。昨年度の状況を踏まえ、必要なフォーマットファイルを作成し、各チーム／各班への寄稿依頼を行った。

2）編集作業と入稿 / 納品 / 配布

本事業は平成 26 年度末の段階で 1 年半（2 年目の終了）であり、COC キャンパスの準備やその活用方法の検討などという重要な検討が成果となる年度であった。本成果は、地域の住民の皆様、関係機関に広く周知する必要があると考え、平成 27 年 3 月 21 日に行われるプレ開校イベントでの成果報告書配布を第一の目的に作成することとした。また、昨年同様、報告書の郵送による関係機関への広報活動を実施することとした。

3　評価

本班に与えられた役割は、具体的な成果を求められるものであったが、一通りの成果があったと評価する。また、平成 25 年度に構築した広報の仕組みを実際に運営するにあたり、必要となった新たな仕組みの構築も本年度の成果と考えられる。

Ⅳ　今後の課題

本班の役割である本事業の広報活動は継続して実施していく。これに加え、今後は本事業そのものの推進を後押しできるような広報活動のあり方を模索していきたいと考える。

撮影番号	イベント名	担当班・チーム名	日時	未・既	前後期	撮影区分	備考
1	スタートアップ演習①	教育改革推進チーム	140410	既	前	スタートアップ演習（全6回）	ガイダンス、各教室風景（芸森）
2	授業公開ソシオデザイン特論（授前①）	まちの教室班	140414	既	前	学長授業公開（1回程度）	南区民センター
3	スタートアップ演習②	教育改革推進チーム	140501	既	前	スタートアップ演習（全6回）	大型バス4台、出発風景（芸森） 地域訪問（真駒内まちセン、エドウィン・ダン記念館）
4	授業公開ソシオデザイン特論（授前②）	まちの教室班	140602	既	前	学長授業公開（1回程度）	カフェminna
5	まちの先生班イベント① 「まちの先生大集合！」 杉本先生	まちの先生班	140702	既	前	セミナー（月1回）全12回	南区民センター
6	スタートアップ演習③	教育改革推進チーム	140703	既	前	スタートアップ演習（全6回）	作業風景（芸森） 地域訪問（定山渓まちセン）
7	スタートアップ演習④	教育改革推進チーム	140710	既	前	スタートアップ演習（全6回）	スカイウェイパネル展示、作業（芸森）
8	スタートアップ演習⑤	教育改革推進チーム	140717	既	前	スタートアップ演習（全6回）	地域訪問（石山まちセン） リハーサル（芸森）
9	スタートアップ演習⑥	教育改革推進チーム	140724	既	前	スタートアップ演習（全6回）	全体報告会（芸森）
10	まちの教室班講演会① 三谷先生駒岡秋まつり	まちの教室班	140824	既	前	セミナー（月1回）全12回	駒岡保養センター
11	コミュニティカフェグループ座談会①　片山先生	まちの談話室	140825	既	前	セミナー（月1回）全12回	南区民センター
12	まちの先生班イベント② 「まちの先生運営会議」 菊地先生	まちの先生班	140924	既	前	セミナー（月1回）全12回	南区民センター
13	ニーズ調査報告会	研究企画推進チーム	140925	既	前	セミナー（月1回）全12回	南区民センター
14	学部連携演習①	教育改革推進チーム	140930	既	後	学部連携演習（全7回）	オリエンテーション
15	まちの教室班講演会② 矢部先生	まちの教室班	141018	既	後	セミナー（月1回）全12回	札幌芸術の森
16	コミュニティカフェグループ座談会②　片山先生	まちの談話室	141018	既	後	セミナー（月1回）全12回	南区民センター
17	南区健康まつり催事班イベント 守村先生、中田先生	催事班	141023	既	後	セミナー（月1回）全12回	南区役所
18	まちの先生班イベント デザインウイーク石崎先生	まちの先生班（特別イベント）	141025	既	後	セミナー（月1回）全12回	札幌駅前地下歩行空間チ・カ・ホ
19	まちの教室班講演会③ 松浦先生・大野先生	まちの教室班	141029	既	後	セミナー（月1回）全12回	南区民センター
20	まちの教室班講演会④ 松井先生	まちの教室班	141108	既	後	セミナー（月1回）全12回	5回連続（11/29,12/20,1/10,1/31）南区民センター
21	COC連絡会儀		141118	既	後	その他2回	札幌市民ホール
22	まちの先生班イベント③ 上田先生	まちの先生班	141125	既	後	セミナー（月1回）全12回	南区民センター
23	コミュニティカフェグループ座談会③　片山先生	まちの談話室	141220	既	後	セミナー（月1回）全12回	南区民センター
24	学部連携演習⑦	教育改革推進チーム	150113	既	後	学部連携演習（全7回）	発表会
25	後期授業公開（授後①） 斉藤雅也先生	まちの教室班	150120	既	後	セミナー（月1回）全12回	カフェminna
26	学部連携演習	教育改革推進チーム	150127	既	後	学部連携演習（全7回）	展示物
27	まちの先生班イベント④ 金子先生	まちの先生班	150210	既	後	セミナー（月1回）全12回	南区民センター
28	まちの教室班講演会 杉本先生・籔谷先生	まちの教室班	150213	既	後	セミナー（月1回）全12回	南区民センター
29	コミュニティカフェグループ座談会④　片山先生	まちの談話室	150221	既	後	セミナー（月1回）全12回	南区民センター
30	コミュニティカフェグループ運営会議　片山先生	まちの談話室	150307	未	後	セミナー（月1回）全12回	南区民センター
31	年度末の公開フォーラム午前	催事班	150321	未	後	年度末の公開フォーラム（全2回	COCキャンパス
32	年度末の公開フォーラム午後	催事班	150321	未	後	年度末の公開フォーラム（全2回	COCキャンパス

4.2 広報企画推進チーム　＜COC 催事＞班

チームリーダー：中原 宏
幹事（班長）：守村 洋
メンバー：デザイン学部：齋藤 利明・石田 勝也・松永 康佑・長谷川 聡
看護学部：猪股 千代子・田中 広美・工藤 京子・石引 かずみ

Ⅰ　本班の平成 26 年度の事業概要・目的

自治体との連携・協力のため札幌市との COC 連絡会議を開催する。また、本事業の PR・周知を目的とし、各班との連携のもとに各種イベントを企画運営する。そして、年度末には、本事業の成果報告会を企画開催する。

Ⅱ　本班の平成 26 年度の役割

本事業の PR・周知を目的とし、各班との連携のもとに各種イベントを企画運営する。

Ⅲ　平成 26 年度の活動

1　事業計画

・本事業の PR・周知（地域住民等への周知として会議、シンポジウム開催
・FD/SD 研修会の実施
・COC 連絡会議の開催

2　主な活動

・みんなでみに区る健康まつり 2014（10/23）

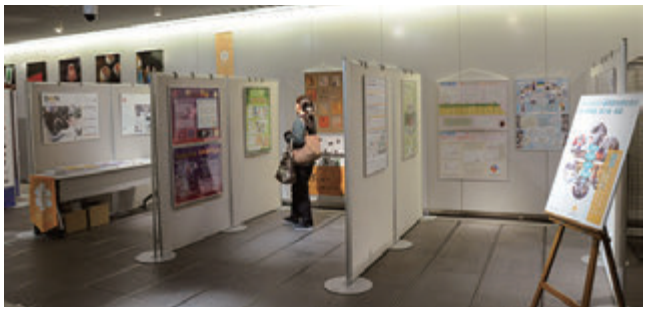
南区民センターで開催された「みんなでみに区る健康まつり 2014」に参加。

本学 COC 事業の紹介だけでなく、転倒予防や誤嚥予防についてのパネル展示も行い、看護学部生が中心となって説明を行った。転倒予防については、本学看護学部とデザイン学部の教員が共同で開発した「転倒予防マット」を用意し、体験してもらった。参加人数は約 100 名。

・さっぽろデザインウィーク 2014「まちの先生 in チ・カ・ホ」（10/25）

さっぽろデザインウィーク期間中（10 月 22 日～26 日）、札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）憩いの空間 WEST 会場で、「札幌市立大学紹介パネル」「COC 事業紹介パネル」「スタートアップ演習成果発表パネル」を展示した。

また、10 月 25 日（土）13 時からは、チ・カ・ホ北 2 条交差点広場（東）において、イベント「まちの先生 in チ・カ・ホ」を開催した。「札幌 LRT の会」副会長の臼井寛氏に『まちの賑わいを取り戻すために』というテーマで講演。「SCU まちの先生」のプレイベントとなった。参加人数は約 100 名弱。



・COC 連絡会議（11/18）

平成 26 年度第 1 回 COC 連絡会議を開催した。

札幌市立大学、札幌市、南区地区連合町内会、南区民協議会の代表者が一堂に会し、これまでの取組みや今後の計画について報告し、本学の蓮見学長から、これまでの COC 事業に対する札幌市と南区住民の協力に対する感謝を述べるとともに、COC 事業の更なる発展・拡充に向けて、札幌市と南区住民の協力への呼びかけがあった。

会議では、南区地区連合町内会の会長のみなさまから、COC 事業に対する様々な意見が出され、今後の事業に反映していくとともに、平成 27 年度の旧真駒内緑小学校のオープンに向けて、協力・連携して事業に取り組むことを確認した。

・まちの学校プレオープニングイベントおよび成果報告会（3/21）

まこ●まる（旧真駒内緑小学校）のオープニングに合わせて、開校式、平成 26 年度 COC 成果報告会、および、学び舎企画推進チーム（まちの教室、まちの談話室、まちの先生）との連携によるイベントを企画中。

3　評価

各チームとの連携および広報班による広報活動により各々の活動が盛会となっている。

Ⅳ　今後の課題

今年度以上に、各種イベントへの参加や COC 連絡会議を定期的に開催することで、自治体や地域住民と緊密な連携を図ることが可能となり、本事業を効果的に実施できる体制となりうる。COC 各チームとの連携を更に密にしていくことが課題となる。

5.COC 特任教員

籔谷 祐介
中田 亜由美

Ⅰ　特任教員の平成 26 年度の活動目的

COC 特任教員は、本事業を円滑に推進させることを目的とし、本学の教職員・学生、各地域関係者などと連絡・調整を行う。また、本事業においてデザイン学部と看護学部が協力し、互いの専門性を発揮し、事業を展開していけるように、デザイン専門の教員、及び看護専門の教員が協力し、調整する役割を担う。

特に今年度は、平成 27 年度開設予定の「札幌市立大学 COC キャンパス　まちの学校」開設までの準備や本事業運営のしくみや基盤づくりを行うことを目的とし、各チーム・班が個々に活動を推進し、連携･協力し、活動できるように、連絡･調整、企画･運営を行う。

さらに、事業を円滑に推進させるための情報を得ることを目的とし、関連施設や大学の視察調査や関連シンポジウム・会議参加による情報収集、関連大学の視察を受け入れ、情報交換を行う。

Ⅱ　特任教員の平成 26 年度の役割

1. 札幌市立大学の教職員、学生、各地域関係者などと連絡・調整をする。
2. 本事業においてデザイン学部と看護学部が協力し、互いの専門性を発揮し、事業を推進していくことができるように連絡・調整する。
3. 各チーム、班が個々に活動を推進し、連携・協力し、活動できるように、連絡・調整、企画・運営に携わる。
4. 異分野連携科目の深化ならびに地域課題の体感・発見に向けた新設科目の設置などの教育改革（COC カリキュラム）を推進させる。
5. COC に関するリサーチの基盤整備、関連調査の実施、地域住民を対象としたウェルネスサイエンス研究を推進させる。
6. 公開講座・授業公開の企画・運営、多世代・多セクターの交流の場の開設に向けた準備、生涯学習事業の企画・運営に携わる。
7. 各種情報発信及び学内外関係者による各種会議の開催に関しての調整や準備を行う。
8. 「札幌市立大学 COC キャンパス　まちの学校」開設に向けて、関連するさまざまな団体や多世代、多セクターとのネットワーク形成を行う。
9. 事業の実施にあたり必要となる場のデザインや整備を行う。
10. 関連施設や大学の視察調査や関連シンポジウム・会議参加による情報収集、関連大学の視察を受け入れ、情報交換を行う。

Ⅲ　平成 26 年度の活動

1　事業計画

1）教育改革（COC カリキュラム）の推進
　（1）異分野連携科目「スタートアップ演習」､「学部連携演習」の準備や運営、授業担当を行う。
　（2）地域課題の体感・発見に向けた新設科目を企画し、提案する。

2）COC に関するリサーチの基盤整備、関連調査の実施、地域住民を対象としたウェルネスサイエンス研究を推進させるための連絡や調整を行う。

3）公開講座・授業公開の企画・運営を行う。

4）多世代・多セクターの交流の場の開設に向けた準備を行う。

5）生涯学習事業の企画・運営を行う。

6）さっぽろデザインウィーク、みんなでみに区る健康まつり 2014 に参加し、地域住民へ本事業の広報活動を行う。

7）事業に関連するさまざまな団体や多世代、多セクターと交流する機会を作り、ネットワーク形成を行う。

8）事業の実施にあたり必要となる場のデザインや整備
　（1）「札幌市立大学 COC キャンパス　まちの学校」開設に向けて、場のデザイン、什器の発注、整備を行う。
　（2）イベントの場のデザインや整備を行う。

9）関連施設や大学の視察調査や関連シンポジウム･会議参加による情報収集、関連大学の視察を受け入れ、情報交換を行う。

2　主な活動

1）教育改革（COC カリキュラム）の推進

（1）「スタートアップ演習」では、演習の準備や運営、各教員や関連地域との連絡・調整、支援を行った。「学部連携演習」では、演習の準備や運営、各教員や関連地域との連絡・調整、他の専任教員とともに1グループを担当し、学生の教育を行う。

（2）「学部連携基礎論」（案）を立案し、提案した。その後、異分野連携科目の展開ワーキンググループに参加し、検討を重ねている。

2）研究

（1）昨年度平成 26 年 2 月に実施した「札幌市南区在住の 65 歳以上の高齢者の健康に関するニーズ調査」の結果報告会の準備、運営を行った。

（2）COC に関するリサーチの基盤整備、地域住民を対象としたウェルネスサイエンス研究を推進させるための連絡や調整を行った。

3）社会貢献

（1）公開講座・授業公開の準備や運営を行った。

（2）食を通して地域住民が交流できる場を開設するために、コミュニティカフェ座談会の準備や運営を行った。

（3）防災をテーマに地域住民が交流できる場を開設するために、行政や企業の防災に関する情報収集、札幌市南区の防災対策を調査した。

（4）地域住民学び合いのしくみづくりとして、まちの先生運営会議の企画・運営を行った。

4）広報活動

まちの教室公開講座・授業公開、コミュニティカフェ座談会、まちの先生運営会議等各種イベントの広報を視察訪問先や関連機関等で説明し、周知を行った。また、「さっぽろデザインウィーク」、「みんなでみに区る健康まつり 2014」に参加し、本事業の概要説明等広報活動を行った。

5）「札幌市立大学 COC キャンパス　まちの学校」開設に向けての準備

「札幌市立大学 COC キャンパス まちの学校」開設に向けて、札幌市の関連部署や学内教職員との連絡・調整により、場のデザイン、什器の発注、整備を行った。

6）情報収集・情報交換

（1）関連施設・大学視察調査

・札幌大学 suicc
・こみゅにてぃさろん八垂別
・千葉大学コミュニティ再生ケアセンター
・柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）
・東京大学フューチャーセンター推進機構
・横浜市立大学並木ラボ
・世田谷文化生活情報センター　生活工房
・ケアーズ白十字訪問看護ステーション　暮らしの保健室
・千葉大学サテライトキャンパス
・みんなの保健室
・北海道看護協会

（2）海外の先進事例調査

<1> 視察の概要と目的

平成 27 年度から「札幌市立大学 COC キャンパス まちの学校」（以下、「まちの学校」）が開設する。この施設は、大学の施設でありながら地域住民による活用も想定しているため、魅力的な場やプログラムのデザインと、大学と地域住民による協同運営のあり方を開発する必要がある。本視察は、住民主体のまちづくりが成熟している北欧周辺地域において、以下に挙げる 5 つの点に着目し事例収集を行い、「まちの学校」の場やプログラムのデザイン、運営のあり方についての示唆を得ることを目的とする。（丸付き数字は後述する視察先を示す）

a) 大学が運営を行う連携拠点施設の運営方法（①、②）
b) ものづくりを通して大学が関わる社会活動プログラム（①、②）
c) 専門家（コーディネーター）が運営を行う施設の運営方法（③）
d) 地域住民が運営を行うコミュニティ施設の運営方法（④、⑤）
e) 人々が集まる場の空間デザイン手法（①、③、④、⑤）

なお、COC 特任教員 1 名と、本事業の根幹となる地域住民との協働を担当する学び舎企画推進チームの教員 1 名の、計 2 名での視察をおこなった。

<2> 視察方法

上で挙げた 5 つの点をそれぞれ把握することのできる事例として、下記の施設に訪問し、運営者へのヒアリング調査と空間調査（②以外）を行った。

①アールト大学 デザインファクトリー（フィンランド　エスポー）
②アールト大学 工学部不動産・計画・地理情報学科土地利用計画・都市研究グループ（フィンランド　エスポー）
③オランダ国税局フューチャーセンター（オランダ　ブレダ）
④地域の家 “Kvarterhuset”（デンマーク コペンハーゲン）
⑤ The Mill（イギリス　ロンドン）

<3> 視察内容

①アールト大学 デザインファクトリー

所在地：フィンランド・エスポー
対応者：エサ サンタマキア氏（空間デザイン責任者）
Web サイト：http://www.aaltodesignfactory.fi/

1) 沿革

アールト大学はフィンランドの国立大学で、2010年に、ヘルシンキ工科大学、ヘルシンキ経済大学、ヘルシンキ芸術デザイン大学の３校を合併して創設した。工学部、経済学部、芸術学部など６学部のほか、「ファクトリー」と呼ばれる学際的組織が３つある。工学部系の「デザインファクトリー」、経済学部系の「サービスファクトリー」、芸術学部系の「メディアファクトリー」である。今回、視察を行ったデザインファクトリーは、旧ヘルシンキ工科大学のオタニエミ・キャンパス（エスポー）にある。同名の施設を中国・上海など世界数ヶ所にも設置している。

2) 施設

施設は元は国立技術研究所だった建物を改修して作られた。延床面積は3,200㎡であり、空間の機能は大きく以下の３つに分けられる。

a) プロトタイピング室
プロトタイプ（模型）を制作するためのスペース（例：工作室、金工室、電子工作室等）

b) 予約スペース
講義や打ち合わせ、ワークショップを行うためのスペース（ステージ、スタジオ、会議室、ブレインストーミング室等）

c) オープンスペース
作業や話し合いを行うためのスペース（ロビー、カフェ、ラウンジ、図書スペース、コンピューター室等）

打ち合わせや作業をするスペースは、仕切りのあるものやないもの、貨物用コンテナの屋上を利用したものなど多様な形態が用意されおり、そのような場所が施設内の様々な場所に点在していることで、施設の中を歩くとどこに行っても誰かが何かをしている様子が目に飛び込んでくる。それにより、施設の利用者は互いにモチベーションを高める効果があると考えられる。また、カフェスペースを施設の中心に設け、食事をする場所をそこに限定しているが、これは必然的に人が集まり、利用者のコミュニケーションを促進させる狙いがあるということである。また、工作室や金工室などのプロトタイプを制作する環境が非常に整っており、思いついたアイデアをすぐに実践できる場であるといえる。オフィススペースは外部の企業が３社入居していて、年間の賃料は１万ユーロ以上ということである。現在の建築物は再利用のため、ところどころ空間が手狭なところがあったが、3、4年後に建て直す予定ということである。

3) 運営

施設は主に修士課程の学生が、企業との連携プロジェクトベースで利用し、この活動の組織や工作室の管理などを職員が担っている。企業は、フィンランドの大企業であるノキア社（携帯電話）やコネ社（エレベータ）などの企業が参画している。毎年、民間企業から共同研究のオファー（毎年30件程度）があり、参加希望の学生がプロジェクトを選択して実施している。プロジェクトは、企業への貢献よりも学生の学び、教育方法の変革を重視しているため、必ずしも企業に利益をもたらすとは限らないことを事前に説明している。企業にとっては、ローコストで新鮮なアイデアを得ることができ、かつ有能な人材を発掘できるというメリットがあるため、お互いwin-winの関係が成立している。フルタイムの職員は７名で、パートタイムで学生を雇用している。

②アールト大学 工学部不動産・計画・地理情報学科土地利用計画・都市研究グループ

所在地：フィンランド・エスポー

対応者：マルケッタ・キッタ氏（教授）

Web サイト：http://maa.aalto.fi/en/research/ytk/

環境心理学者であるマルケッタ・キッタ氏が行っている、GIS（地理情報システム）を利用した研究について伺った。キッタ氏は、「SoftGIS」というシステムを使って従来の地理情報システムに、人々の心理や行動といったソフト面のレイヤーを追加し、地域の分析や都市計画に生かす試みを行っている。従来の都市計画では、住民の意見がすいあげられ生かされることが少なかったため、より気軽に参加できる新しい参加型のアプローチをとって研究を進めている。実際にヘルシンキの都市計画において、このシステムを使って住民の意見を収集しており、現在はこの結果がどう生かされるのかを注視しているということである。すでに日本の研究者との共同研究の実績もあり、またこのシステムの利用については研究者に開いているということだったので、今後は共同研究の可能性を探っていく。

③オランダ国税局フューチャーセンター

所在地：オランダ・ブレダ

対応者：エルンスト・デ・ランゲ氏（マネージャー）

1) 沿革

オランダ国税局のフューチャーセンター、通称「シップヤード」は、「邪魔する権利（License to Disturb）」をコンセプトに掲げた対話をするための施設であり、2003年に国税局のアイデア・マネージメントの部署がベースとなって設置された。国税局には約3万人の職員が在籍し、もともと多様な部署からの提案を投稿できるオンラインのシステムが整備されていたが、それでは解決できない問題を話し合う場の必要性を感じたことをきっかけに施設は設置された。この施設の設置は組織のコスト削減に寄与している。

2）施設

施設は3階建ての邸宅を改修したもので、会議室、カフェ、事務所、食堂、野菜庭園がある。空間が与える無意識の影響力を活用し、各室は目的に応じた空間演出がされている。既成概念とは異なる意外性を持った室のデザインとすることで、利用者の創造性を引き出している。これらの空間演出については、基本的にスタッフが自ら制作を行っている。また、各階にはコーヒーが飲めるスペースが用意されていることも特徴である。

3）運営

この施設は1日に1団体しか利用することができず、年間で4,500人ほどの利用がある。運営スタッフは9名で、国の税金システムを想像的に思考するための環境づくりや柔軟な発想を促すためのマネジメントを行っている。ワークショップは外部の専門家に委託をしている。また、大学と協働で研究を行うこともある。

④地域の家（Kvarterhuset）

所在地：デンマーク・コペンハーゲン

対応者：マッズ・ユングショヴト氏（副代表者・管理部）

Web サイト：http://kulturogfritid.kk.dk/kvarterhuset

1）沿革

地域の家は、コペンハーゲン南部のホルムブラッズ通り地区にあるカルチャーセンターである。この地区は人口16,000人、そのうち15％が外国人で、30以上もの国から来た人々が住む多文化地域である。またこの地区は、住宅の整備や住宅まわりのオープンスペースが不十分、公共施設がないなどの様々な問題を複合的に抱えている。そのようななか、1997年から開始された「地域再生事業」というハードとソフトの包括的な整備を通してまち再生に取り組む国の事業によってこの施設は整備された。この事業では、市民公募によって選出されたプロジェクトリーダーが中心となり、地域住民を集めたミーティングの開催や、地域住民と行政職員による運営委員会の組織を行うことで、先に挙げた地区の様々な問題の解決を目指す。運営委員会の下には5つのテーマのワーキンググループが活動を行っていたが、それらの決まった活動の拠点がなかったことが問題となり、市が古い建物を購入し地域の家を整備

することになった。

2）施設

施設は、古い建物を改修したものと新たに新築したものから構成され、2001年に整備された。延床面積は3,500㎡であり、現在は1階に地域図書館、カフェ、2階に会議室、事業事務所等、3階に若者学校、4階に事務局、地方委員会が入居している。カフェはエントランスを入ってすぐに位置し、3層吹き抜けとなっていることから、施設利用者が集まりやすく、交流拠点として機能している。また、別棟にはホールが設けられ、ガラスが宙を浮いているような意匠となっており、建物内の賑わいが周辺の賑わいを演出している。

3）運営

事業が終了した2004年以降の施設の管理・運営は、市の文化・余暇管理部が行っており、2010年に地域の家を含む、4つの施設がアマーブロ・カルチャーというひとつの文化組織としてまとめられた。運営委員会は現在も存続しており、地域の意見を市に伝えるための役割を担っている。また、施設にはNPO法人や地域団体等、様々な地域の団体が入居してこの場で活動している。施設を地域住民が利用するという構図は日本と同じであるが、地域住民がここを利用することでソフト面での場づくりを担っており、そのような意味では地域と行政が共同で運営を行っていると捉えられる。

⑤ The Mill

所在地：イギリス・ロンドン

対応者：モー・ギャラッシオ氏（アート部門ディレクター）

Webサイト：http://themill-coppermill.org/

1）沿革

The Millは、2011年にロンドン東部に開設したコミュニティ施設である。もともと地域の公共図書館が閉館することに反対する住民運動から始まったコミュニティで、元図書館の建物を改装して利用している。

2）施設

施設は、2階建の1階部分と裏庭を利用している。機能としては、受付、貸し出し用ミーティングルーム（大・小）、ワークショップルーム、図書室、キッズルーム、庭があり、各室はできるだけ間仕切りを設けずに、緩やかにつながっている。そのことは各利用者の交流促進に寄与すると考えられる。通りに面した部分はすべてガラス張りとなっており、施設内の賑わいが外に表出する。

3）運営

この施設では多くの市民サークルによる講座やワークショップが開催されており、住民が自発的に関わる拠点として成功している。特に、語学や女性など社会的弱者をエンパワーメントする活動が多いように見受けられた。The Millの運営メンバー自身は、実際の活動を企画・実施するよりも、多くの市民活動のサポートや調整を行っている。視察日当日の日曜午後は、アーティストによる子どもむけの工作ワークショップが開催されていた。

フルタイムの有給スタッフは2名のみで、ほかはパートタイムとボランティアによって運営されている。運営に関する主な問題は資金面で、慈善団体の助成金を受けているものの運転資金は不足している。そのため、ボランティアでスキルを身につけた方を継続雇用したり、ワークショップを無償で提供してくれたアーティストに謝金を払うことをしたくてもできないということである。ミーティングルームの貸出や、施設のオリジナルTシャツやマグカップを作成・販売によって、資金を集めている。また、The Millの運営が成功していることから、市から家賃の割引を受けたり、市の事業のアドバイスを求められるようになっている。

4）大学との連携

大学との連携はいくつかあるが、長期的に運営に関わるほど深い関係はない。そのひとつが、RCA

（ロイヤル・カレッジ・オブ・アート）のCreative Citizensという研究プロジェクトで、The Millのワークショップツールとして、「ストーリーマシン」というモバイルな投影ルームと、「ステアリングカメラ」というiPadと車のハンドルを組み合わせたツールが制作されていた。

<4> まとめ

今回の視察のまとめを、ハード面とソフト面に分けて述べる。

まずハード面として、空間や場の雰囲気が人の気持ちを変化させるという意識はどの施設にも共通して見受けられ、それぞれに工夫が凝らされている。特に、使いながら自分たちで更新することで、常に利用者の交流や話し合いが促進される空間のあり方が探求されている。また、カフェやキッチンの位置づけが重要視されており、食べるという行為を通して、コミュニケーションが促進されている。施設内には様々な団体が入居している事例もあり、それらが場を共有することで連携の促進につながっている。また、施設の様々な場所に、作業やおしゃべりが自由にできるオープンスペースを点在していることで、気軽に施設に訪れることができ、出会いが生まれる。活動が外に表出する空間づくりが行われることで、施設をより身近なものに感じさせ、また地域の賑わいづくりにも寄与する。

ソフト面として、運営形態は各事例によって様々であるが、住民が関わる事例では「個人が社会を変える」という意識が定着しており、施設を活用してボランティアや地域活動団体が様々な活動を行っている。施設の管理者はプログラムの企画を行うよりも、情報の収集・発信、利用者どうしのつながりのコーディネート等、全体のマネジメントを行っており、場の運営は管理者と利用者が共同して行っていると捉えられる。情報発信には、webやソーシャルメディアを積極的に活用している。

以上のように、これらの事例から、今後の「まちの学校」の場やプログラムのデザイン、運営のあり方について考えるための示唆を得ることができた。来年度からは、開設する「まちの学校」において、実施・検証を行う。

（3）関連シンポジウム・会議参加による情報収集

・ケアとクリエイティブをかんがえる　ケアクリ会議
・名古屋学院大学サイエンストーク
・さっぽろ若者会議
・高知大学「地（知）の拠点整備事業シンポジウム～COC全国ネットワーク化事業～」

（4）関連大学視察受け入れ、情報交換

・大阪府立大学
・宇都宮大学
・小樽商科大学
・島根県立大学
・名古屋学院大学

7）新たな仕組みづくり

（1）COC STUDENT PLAZA（次ページ右段参照）

地域貢献活動に興味のある学生を支援する目的で、COC STUDENT PLAZAという仕組みを設置した。COC特任教員が相談窓口となり、学生の地域貢献活動を支援している。申し込みをした学生たちで結成された「アトリエ保健室」というプロジェクトチームが2014年10月から活動を開始し、「札幌市立大学COCキャンパス　まちの学校」で行う地域貢献活動および1教室の空間デザインを検討中である。また、「静と動」というプロジェクトチームでは、地域の子どもたちとお芝居を作り上げる「みなみのげきじょう」という企画を立て、来年度からの実施に向けて準備を進めている。

（2）「（仮称）SCUまちの保健室」検討ワーキンググループ

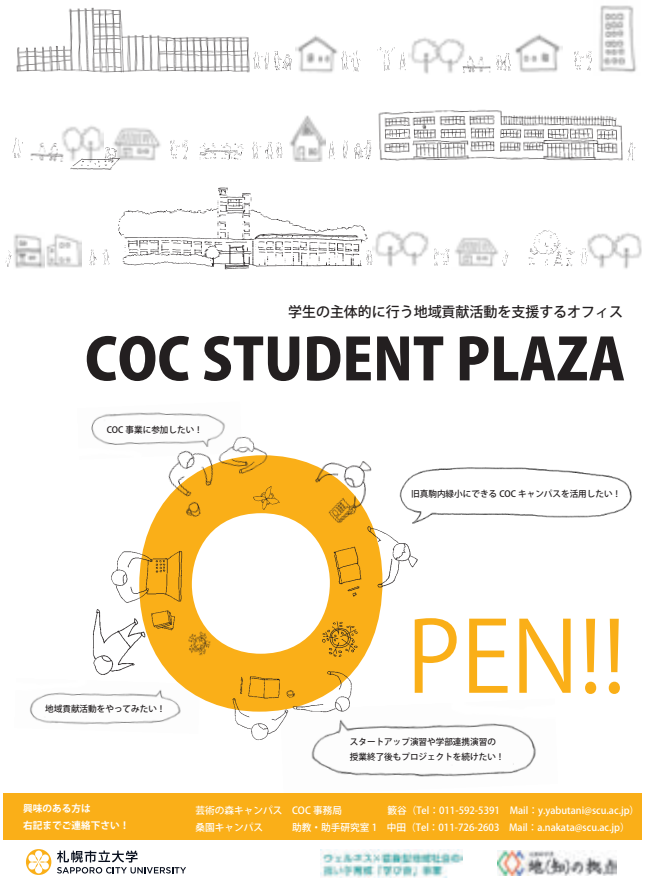
地域の方々の「ウェルネス」実現の取り組みの一つとして、2014年12月に「（仮称）SCUまちの保健室」検討ワーキンググループを設置した。COC特任教員は、ワーキンググループ設置に向けて、関連施設の視察等の準備や教員間の連絡・調整を行った。ワーキンググループ会議では、住民の健康や生活に関連したニーズに応える活動を行うための機能、運営体制、ハード面について検討している。

3　評価

COC特任教員の役割として、事業を円滑に推進させることを目的に、札幌市立大学の教職員、学生、各地域関係者などと連絡・調整に努め、今年度予定の事業は無事に終了している。また、「札幌市立大学COCキャンパス　まちの学校」開設の準備も滞りなく進み、達成できたと評価する。

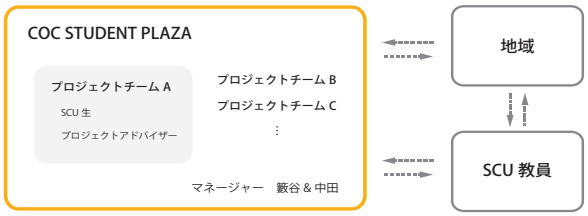
Ⅳ　今後の課題

「札幌市立大学 COC キャンパス　まちの学校」を来年度５月に予定としており、開設に向けた準備を進めていき、地域に根差した活動拠点となるように地域住民のニーズの把握に力を入れ、事業を推進させていく。また、COC STUDENT PLAZA や「（仮称）SCU まちの保健室」検討ワーキンググループなど、今年度新たに発足したしくみ含めた学内組織体制の確立・整備をすすめていくことが課題である。また、事業終了後の継続性を考慮し、企業・行政・地域住民による運営団体「（仮称）COC 応援団」について、検討を始める必要がある。



COC STUDENT PLAZA とは

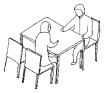
COC STUDENT PLAZA は、地域貢献活動に興味のある SCU 生の主体的活動を支援するオフィスです。ここでは SCU 生が中心となってプロジェクトチームをつくり、地域貢献活動であるプロジェクトを行うことができます。各プロジェクトでは、プロジェクトアドバイザーである SCU 教員からプロジェクトの企画・実行に関するアドバイスを受けることができます。また、COC 特任教員の藪谷と中田がマネージャーとなり、SCU 生、SCU 教員、地域をつなぎ、プロジェクトチームづくりのサポートを行います。



4つの機能

COC相談室

地域貢献活動に興味のある SCU 生の活動に関する相談を行い、SCU 生どうし、SCU 生と SCU 教員、SCU 生と地域のマッチングや活動へのアドバイスを受けることができます。



COCメディア

地域貢献活動に関する情報の受け取りや、プロジェクトの情報発信のサポートを受けることができます。

COCミーティングスペース

SCU 生、教員、地域の方々がミーティングを行う場を利用することができます。

COCロッカー　平成 27 年度 4 月～（予定）

旧真駒内緑小学校にできる COC キャンパス内に整備するロッカーをプロジェクト単位で利用できます。

申込方法

別紙申込用紙に必要事項を記入の上、下記までお申し込み下さい。なお、申込は年度ごと必要となります。

芸術の森キャンパス　COC 事務局　藪谷（Tel：011-592-5391　Mail：y.yabutani@scu.ac.jp）
桑園キャンパス　助教・助手研究室 1　中田（Tel：011-726-2603　Mail：a.nakata@scu.ac.jp）

文部科学省：平成25年度採択：「地（知）の拠点整備事業」
ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業

大学本部・デザイン学部・デザイン研究科
芸術の森キャンパス：005-0864 **札幌市南区芸術の森１丁目**

看護学部・看護学研究科・助産学専攻科
桑園キャンパス：060-0011 **札幌市中央区北11条西13丁目**

【お問い合わせ先】
札幌市立大学 COCキャンパス まちの学校（COC事務局）
〒005-0014 札幌市南区真駒内幸町2丁目2-2
TEL　：011-596-6675
FAX　：011-596-6676
e-mail：jim-coc@scu.ac.jp

平成 25 年～ 29 年度 文部科学省
「地(知)の拠点整備事業(大学 COC 事業)」
ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業

平成 26 年度 成果報告書

平成 27 年3月

編集・発行 広報企画推進チーム ＜COC広報＞班、COC 事務局

＊ウェルネス(Wellness)とは?

生涯にわたり、「健康で」「楽しく」「生き甲斐がもてる」状態

http://coc.scu.ac.jp/